

2019 年 四季折々【18】

■ 神戸で 思いつくまま From Kobe 2019

【神戸で 思いつくまま From Kobe 2019】



今の世相や我が身を振り返りつつ

平和について 振り返る

🌈 困難の中に居られる方々にエールを!!

🌈 平和を願って 決意も新たに!!

日々新た 今できることを 精一杯 無理せずゆっくりと
いつも 思いをはせています。

「忘れまい 忘れないで 仲間がいる
暖かい希望の輪が繋がっていることを」

神共に居まして
得られるものを 変える「勇氣」
変えられないものを
受け容れる「心の静けさ」
両者を見分ける「眼智」を
ニーバーの祈り より、
God be With you !!



へいわって なにかな。ぼくは、かんがえたよ。
ねこがわらう。おなかがいっぱい。やぎののんびり
あるいてる。ちょうめいそうがたくんはえ、
よなぐにうまが、ヒビーンとなく。
みんなのこころから、へいわがうまれるんだね。
これからも、ずっとへいわがつづくように、
ぼくも、ぼくのできることからがんばるよ。

安里有生/詩 長谷川義史/画

- ◆ 安里有生君の詩 (20136.23発表当時小学 1 年生)
「へいわって すてきだね」
- ◆ PDF Photo「原爆資料館 & オバマさんの折り鶴」
- ◆ 原爆資料館 映像展示資料 原爆を投下された広島

📰 新日本住金 → NIPPON STEEL 住金純属の朝日の記事に思いを馳せて 2019.4.11.

重厚長大の象徴「鉄鋼」から住金の名が消えた
高度成長から、成熟経済の時代を 一緒に駆け抜けた我が身を振り返る

新しい時代を創出するやの如く日本の高度成長を支えた新創住金の名が消えた

2019.4.9. - 4.11. 朝日新聞朝刊 経済欄「死後 母を親戚上・中・下」



年号が平成から令和に 新しい時代を元氣に!!

新生の皇政に満ちて 新しい出会いと出発に日々あふ

後継高齢者になって迎える新時代 仲間の元氣を活力に!! 令和元年5月1日

折しも、重厚長大の象徴「鉄鋼」から住金の名が消えた
高度成長の「昭和」・成熟経済の「平成」を共に駆け抜けた我が身を振り返る
新生の皇政に満ちるとは言えずとも
お互い God be with you!! 元氣に前向いてと
我が身の人生を振り返る 令和元年5月1日です

昭和は昭和で戦後 小村賢次氏「インバウンド」を大事 恒田純一

「平成の30年間、日本は戦後の時代だった 戦後日本、生活激変の時代」



By Mutsu Nakanishi

四季折々・Monthly 神戸便り from Kobe 2019

2019 年 四季折々・From Kobe : 掲載記事トピックス

更新の折々 頭にあることを書き連ねた From Kobe も今年は毎度同じことの繰り返し。
地球温暖化が抜き差しならぬ時代 その自然の災害の猛威が直接我が身にも
そんな激動の中で 身勝手な政治に振り回され続ける定見なき日本 日本はどこへ行くのか・・・
この一年 書き綴ってきた文章を眺め、一年を振り返ってみると同じことを繰り返し、言い続けてきたようだ。
歳が平成から令和に変わり、大きなパラダイムシフトが世界で起こっている。
そんな中で日本はどこへゆくのか?未だに方向がみえぬ理由のわからぬ社会情勢。
先が見えぬ日本 そんな状況が今も続く一年だったと。
12月COP25 あのスウェーデンの16歳の若者が世界を相手にあれだけ地球危機を訴えている。
それも世界の首脳たちを前に堂々と。そんな問いかけにどうこたえればよいのか・・・
新聞の論調もここに来て 急激に変わってきた。
そんなことを感じる中で、**日本社会の読解力低下の記事**が出た。
科学技術立国・ものづくり世界一が もう誰の目にも由来で見え出した今 「**自立して物事を考え理解し判断する力=読解力**」がここ10年で大きく下落し、トップクラスから遠く離されてしまったと。
3月 小林喜光氏の「**平成の30年間、日本は敗北の時代だった 敗北日本、生き残れるか**」の記事に
ビックリして以来の強烈な日本へのパンチである。馬耳東風の日本 これで良いのか・・・
日本の今を振り返る一助になれば・・・と。ふれた年寄り風来坊のたわごとです。

下記の文は本年はじめの from Kobe に書き記した言葉である。

◆ 2019 年 年のはじめに 心も新たに 年のはじめの思い

日本人の心の故郷 「縄文」・そして太古から国土・海を豊かにしてきた「鉄」に思いをはせて
私がよく口にする「縄文帰り」・「日本人の心」、そして この変革の時代に新しい顔を見せる「鉄」

生命をつかさどる元素文明を支える元素として「鉄」がなければ人類は生きてゆけない
溶鉄の輝き「閃光」と鉄の黒光「肌光」その輝きの中に燦然と輝く「鉄」と人類の知恵の数々
人類が激変する地球を生き抜いてきた唯一の道・知恵が「他人を思いやる心」
かつて日本には「1万年の長きにわたって平和な社会を持続した形成してきた時代があった」
日本人の心のふるさとといわれる「縄文」 そのエンジンが「縄文の心-他人を思いやる心」だった
「鉄」と「縄文の心」 激変 の今 時代を生き抜く唯一のエンジンである
現代社会においてはしばしば「なまっちよい」と呼ばれ、切り捨てられてきた「心」
でも 一旦危機災害に直面した時には 誰しもがその力強さに心打たれる「心」
「鉄」も今 激変する時代の中で、新しい姿を見せ、新しい役割を示し始めた。
「鉄は国家なり」の「鉄」から「豊かな海を育てる優し 鉄」・「地球温暖化を軽減するかもしれない鉄」へ



望むと望まざるにかかわらず、躍動の時代から 成熟社会・人口減少の「激変の時代」へ
人類が幾たびも経験してきた絶滅の厳しい淵に立っている。

人類が困難を生き抜いてきた力それは「仲間を大切に思う心」の進化」と「集団の協力」
約1万年の長きにわたって永続した日本の縄文はその実証例
幼くして歩けぬ障害をもった少女が、年若いまで
集落の人たちに見守られ、生活を共にしてきた例が見つかった。
「心優しき縄文人」「日本人の心の故郷」と言われる所以である。

また、「地球は鉄の惑星 もし 鉄が地球になかば、地球の生命体も生命を維持できず、存在しえない。
動物の血液中の鉄・植物の光合成にも鉄が関与しりせている。
山海の動植物の生態系も また「鉄」により、維持されている。

縄文の森を含め、太古の昔から、日本列島の沿岸には豊かな山・森があり、
最近「沿岸の山や森が豊かな海を育てる」「山は海の恋人」耳にするようになったが、
山に含まれている鉄分が森の植物によって、水に溶けこむ鉄となって、川を下り、豊かな海を育てる。
魚貝や海産物の資源の形成・生態系の循環には豊かな山や森の存在が欠かせぬことが明らかになっている。

ここでも「他人を思う心」・「集団の協力」をエンジンにした地方自立循環型経済創生・豊かな海や森の
資源開発が進められている。

鉄の惑星 激変する危機を生き抜くエンジンは「他人を思いやる心」
幸福への岐路にある今 スピード・情報過多の情報社会の流されず、自らをじっくり考えよう。
そこに地球に生きる仲間みんなの共存再生の道がある。
「心優しき縄文人」「分かち合い」の多様性 そして 沖縄には「命こそ宝」の言葉もある。

終活が頭にちらつく我々だからこそその役割もあると信じて今を前向いて
わが道をゆく God Be With You!!

また、本年こそ日本の縄文に 世界遺産の道が開かれますよう 期待を込めて

2019.1.1. Mutsu Nakanishi

一年経っても世界情勢 社会に大きな変化が見られず、特に日本ではひたすら高度成長期の成功体験にとらわれ、高度情報化のうねりの中 競争と効率を追い求める同一均質化の社会を未だに追い求め、多様・多質の柔軟な社会に鍛冶が切れないでいる。
景気は一向に良くなり、格差はますます増大する中、高齢化は急速に進み、不安感が漂う社会。そんな中で 美辞麗句の薄っぺらな掛け声に酔いしれ、自分さえ良ければ・・・と。
掛け声とは裏腹の薄っぺらな高度情報社会に はっと気がつく。
日本はこれからどこへゆくのか・・・ そんな思いを書き綴った本年の from Kobe 雑文。

- 1月 [心の故郷「縄文」と「鉄」に思いを馳せて](#)
- 3月 経済同友会代表幹事 小林喜光氏 <インタビュー>記事 転記ご紹介2019.1.30 朝日新聞朝刊
[「平成の30年間、日本は敗北の時代だった 敗北日本、生き残れるか」](#)
- 4月 兵制からたらしい年号「令和」が発表された1日[高度成長を支えた鉄鋼住金の名が消えた](#)
[「平成」の総括から「令和」の新時代へ](#)
- 7月 経験したことのない初夏 目まぐるしく変わる気象変化に負けぬよう
- 8月 [2019 ひまわり夏 神戸便り](#) 雑感 異常気象をひしひしと感じる今年の夏
参議院選「嘲笑する政治」この夏 一番 私に響いた言葉 朝日新聞 2019.7.7.
- 10月 [朝日新聞 2019. 9.27朝刊 天声人語・オピニオン&フォーラムより](#)
大きなパラダイムシフトが進行する国際情勢の中で、国民に何も説明せず、みくだす横暴な仲間政治
理念も目標も失いまだに高度成長期の流れにしがみつく日本 これではよいのだろうか…
なぜ、日本では新しい雇用・ビジネスを生みだす先進事業・企業が生まれない。
- 11月 この秋に思うこと 色々 この秋 何度か耳にした情報
効率化・選択と集中 行き過ぎた資本主義は人々を幸福にしない
GAFA グローバルな巨体企業の存在は富を集中し、富の分配がなされない」
多重・多様化をキーワードに《柔軟な社会作りへ舵を切る》パラダイムシフトの波がおこりはじめた
- 12月 [師走の今 本年を振り返って 心に響いた言葉](#)



新聞の論調も今 急激に変わってきた。
一度耳を傾け、日本の今を振り返る一助になれば…と。
また、日本の縄文をもっと知ってほしいと言い続けてきましたが、やっとまたユネスコ世界遺産登録の土俵に。
最近 縄文についての記事や解説が新しい視点で語られるようになったのもうれしい。
いろんなことがあった一年 あれもこれもとあたまを駆け巡り、令和元年が暮れてゆく……………
早く若ものの時代へ舵を切れ!!との思いです
来年こそ 令和の新しい時代と 誰もが実感できる明るく平和な時代になってほしいと。
20019.12.31. 2019年 四季折々 和鉄の道を振り返って

2019 本年を振り返って 心に響いた言葉 From Kobe 12月より

2019.12.8. Mutsu Nakanishi

師走になって、ことし一年を振り返って その時折々 書き綴った季節の便りの中でお送りした言葉。ほんとうに毎回 同じ言葉ばかりでした。

インターネットやニュースでは、今が一番と社会への満足を謳歌する言葉・番組があらわれるが、何とはなしに息苦しく閉塞・不安が漂う社会。なにか自分には合わない。ついていけないなあ・・・と。後期高齢になって非生産的な日々を送る今 取り残されているとの不安感が頭をよぎる。
「でも ほんまにええのか・・・ 現実はどうだろう・・・」

そんな師走の中で発表された OECD が3年ごとに行う世界各国の15歳を対象とした学力総合調査。(読解力・数学的リテラシー・科学的リテラシーの3分野)で、高い学力を維持しているものの、日本の読解力が大幅に低下したと伝えている。日本の現在の社会に与える強烈なアッパーカットである。教育の問題 子供の問題と過少評価する向きもあろうが、この問題今の日本の現実 社会の問題。日本が一人 国際社会から取り残されてゆく深刻な姿が映されている。
でも 日本社会はそれに気が付かない。

15歳 ネット情報精査が弱点

OECD 国際調査

Programme for International Student Assessment (PISA)

OECD 国際調査の結果、日本の読解力が大幅に低下したと伝えている。日本の現在の社会に与える強烈なアッパーカットである。

日本の成績の推移

読解力 数学的リテラシー 科学的リテラシー

2000年 2006年 2012年 2018年

OECD 平均

日本はOECD平均を下回っている。

日本「読解力」続落15位

読解力の低下は、日本の教育制度や社会環境に起因している。特にデジタル技術の普及により、情報の精査能力が求められるようになった。

15歳 ネット情報精査が弱点

15歳の若者がインターネット上で得た情報の真偽を判断する能力が低いことが調査で明らかになった。

日本のデジタル対応課題

デジタル技術の活用が進んでいる一方で、教育現場での対応は遅れている。特に読解力の低下は大きな課題となっている。

2019年(令和元年)
12月4日
水曜日

朝日新聞

朝日新聞

朝日新聞大塚本社

日本「読解力」続落15位

15歳 ネット情報精査が弱点

天声人語

南米のイースター島は巨大なモアイ像で知られる。住民は像の運搬に木材を使ったはずだが、森はその後すっかり消失した。ネズミによる食害か、それとも住民が乱伐したせいかわ。世界の15歳が挑んだ国際調査PISAの出題例である。鳥の森林消失の理由を論じた資料を並べ、どの説が正しいか論拠を挙げて答える。筆者も解いてみたが、出題意図がつかみにくい。採点してさらに驚いた。食害か乱伐かのどちらかだろうと思いきや、「両説とも十分、さらなる研究が待たれる」とも正解とされた。調査に参加した日本の高校生たちは、さぞ冷や汗を流したところだろう。筆者の世代は教室で出会うことになった設問形式である。しかも紙と鉛筆ではなく、コンピューター画面上で解かれたと聞き、同情を覚える。▼「学校では優秀生だったのに就職後はさえない人がいる。それはなぜなのか」。数年前、取材したPISAの担当者から言われた。「細かな知識はネットですぐ得られる。知識よりも、知恵を出して事態を突破する力が求められている」。熱のこもった口調だった。▼2000年調査で日本は大きく順位を下げ、激震が走った。今回も「読解力」が低下した。中国都市圏が好成績なのはなぜか。日本のデジタル教育はなぜ遅れるのか。結果に振り回される必要はないが、今後はそんな究明が欠かせない。▼自分が学生時代に受けた試験との「哲学」のあまりの違いに考え込む。学とは何なのか。根源的な問いを突きつけられた。

2019・12・4

2019.12.4. 朝日新聞が伝える OECD の 15 歳学力調査結果と天声人語の記事

◆拡大記事 URL: <https://www.infokkna.com/ironroad/2019htm/OECDasahikiji191204a.jpg>

無知盲目の仲間を募って 数の力でなんでも押し切る刹那の社会 美辞麗句を並べ 中身はそっちのけ
なんでもかんでも 自己責任に転じる。 自分の政策を「・・・ミックス」と自ら声高に言いまわるのは
自己陶醉そのもの。

セーフティネットがずたずたになった国土・地方は疲弊し、ますます格差が広がる刹那日本の情報社会
この秋 30 歳 40 歳の働き盛りの給与水準は 10 年前の給与水準よりも 10%以上低下しているとの
統計が発表されている。その上 消費税は 10%に。 一方会社は好景気を謳歌し、高収益・内部留保
をため込んでいる。そして 人手不足が深刻だという。全く不思議な現実。
これは人為的な政策の代物の何物でもない。

片手間の非正規雇用対策ばかりでなく正規雇用の拡大 そして何よりも働く場・新しい雇用を生み出す産業創生
に注力せねば・・・。

でも 新産業創設の研究開発費の投入・分配の見識のなさは目に余る。

もう技術立国は影薄く、大企業は今の事業路線にしがみつки、次の事業がない。

これでは新しい雇用は生まれない。もう 大企業依存・イベント依存から脱却せねば…

湯水のごとく民衆の懐に手を入れて使う国債・消費増税頼みも限界に……………

昔はよかった…との言葉も聞かれるようになった今、もう 破綻寸前と映る

もっと 皆が明るい社会にならないものか…そんなことばかり言ってきた一年だったと映る。

そんな師走の中で発表された OECD が 3 年ごとに行う世界各国の 15 歳を対象とした学力総合調査
(読解力・数学的リテラシー・科学的リテラシーの 3 分野)で、数学・科学の分野では高い学力を維持しているが
日本の読解力が大幅に低下したと伝えている。「リテラシー」とはなにか…また読解力の問題とは…………
インターネット等で調べると、原義では「読解記述力」を指し、転じて「適切に理解・解釈・分析し、改めて記述・表現する」という意味に使われるという。

要は社会全体の活力の源泉 知識は非常に高いレベルであるものの 知恵・判断・確かな行動アプローチが出来
ないといわれ、社会の活力が失われているとの警鐘。

常々 多くの人が指摘する日本社会の課題と現状があからさまに国際的にも指摘された。

国際社会がし認める国力の先行きを示す重要な指標でと言える。

強がり言うまい。 今日本の現実はどうなのだ……と。 そう思うと本当にいろんなことが見えてくる。

この一年 日本で起こった数々の問題の根源にこの指摘が当てはまる。

◎ 読解力と「リテラシー (literacy)」とは、

読み書きができる能力や、その分野の応用、活用力、理解力を意味。

「リテラシー」は、単独でその言葉だけを使うことは少なく、「コンピューターリテラシー」や
「メディアリテラシー」「環境リテラシー」といった風に使うという。

◎OECD 調査 読解力の設問

解説を含め 2019.12.4. 詳細が示されている東京新聞の記事を紹介する

「ラパヌイ島」と題する設問

ラパヌイ島（イースター島）で調査をしている教授はブログで、

モアイ像が作られた当時にはあった大木が現在は生えていないことに疑問を示す。

木の乱伐が原因とするジャレド・ダイヤモンド氏の著書「文明崩壊」の書評、

ネズミが種を食べたためとする科学者の反論を紹介する記事があわせて示される。

生徒たちはそれら三つの文章を読み、大木が消滅した理由を根拠を挙げて説明することを求められる。

自らの可能性を広げ、社会に参加するために文章を理解して熟考し、考えを表現する力。

それが OECD が提示する読解力だ。……………

三年ごとの調査結果は教育政策に大きな影響を及ぼしてきた。

ゆとり教育転換の一つの契機は、読解力などが低下傾向にあったことだ。

2007年に再開された全国学力テストの出題はPISAを強く意識したものとなっている。

202年度から本格実施される高校の新学習指導要領では国語を「論理国語」「文学国語」などに再編する。

文学が片隅に追いやられるのではないかと文学界などから懸念の声が上がっている。

調査では読書についても尋ねており、興味深い分析結果が出ている。

雑誌以外では「読む」グループの方が「読まない」グループよりも得点が高く、

最も得点差が大きいのは小説や物語などのフィクションだった。次いで新聞、漫画となっている。

「論理的」と仕分けされた文章だけが、読解力を育むとは限らないことを示唆しているのではない。

読解力は、多様な養分を吸収してゆっくり育つ木のような力なのだろう。

読解力育成のため、社会や理科など国語以外の教科でも、文章のまとまりなどを意識した授業改革に取り組み始めた学校もある。調査の順位のためというよりは、子どもたちの未来を広げるために、学校や社会が豊かな養分を含んだ土壌でありたい。

インターネット記事検索でみつけた東京新聞 2019.12.4. 記事より 全文整理

これは今の学校のOX式詰め込みの受験教育の中では最初から設問に詰まって解けないわ……と。

でも 一部の私学では そんな読解力中心の国語授業が行われ、他の授業と連動されているとの話を聞いて、余裕があるなあ。。。と感心したこともある。

天声人語氏は「細かな知識はインターネットで得られるが、知識よりも知恵を出して、事態を突破する力が求められる」というOECD担当者の言葉を紹介している。日本に一番今かけている点との指摘。

知識がいやというほど積み込まれていく日本の今の画一的な教育への痛烈な一発である。

みんながみんな社会全体が同じ方向にむけた発展途上の高度成長と成熟した今の情報社会には当然違いがある。

今の時代 一部の人に情報が限らず 同じ情報を広くみんなが持っている。そこに 多層多重の芽があり、それを封じて 同一を強いられることに息苦しさをを感じるし、異を感じる時代なのである。で

も 日本では今 あまりにも「不思議やなあ」「おもしろいな」などの発想や知識から広がる「知恵」がない。

付和雷同 感激・感動ではなく盛り上げの言葉が空虚に響く。

知った知識を少し披露しただけで「それがどうしたの…… ああ めんどくさ」との言葉がすぐに。

知識から知恵・発想への転換が全く無視され、同一同調が一番される日本昨今の情報社会。

なにも子供たちの教育問題だけではない。今の日本の社会全体がそうになっているのだ。

とりわけ、日本を動かしてきた政治・大経営者たちの言動をみれば一目同然……

ほかにも この12月 心に響いた記事がいくつかありましたので、転記。

この秋 重多様な社会への脱皮について、それぞれの個性を意識する多様多重社会の醸成を考える本や新聞記事・番組に数多く出会うことがあり、自分にはできなかった反省も込めて。

特にあまりに個性豊かで 仲間・先生・学校での集団生活に溶け込めず、「好きなことを 好きに 好きな時に」とその都度 自分の実学ノートに記してきた7年間の記録をひも解くNHKの番組NHK「ボクの実学ノート 7年間の小さな大冒険」で語られた 生物学者福岡伸一さん著「エリボシカミキリ」の中にある言葉やこの秋読んだ「ソーシャル・マジョリティ研究 コミュニケーション学の共同創造」にも心に響きました。

また、本年は仲間がみんな後期高齢を迎え、老化と向き合う歳に。

老化と闘い、また先に逝ってしまった仲間もいる。この秋は仲間を思い浮かべながらの毎日散歩になったことも数多し。

でも まだまだ好奇心もあり、足も動く。家族仲間もいる。勝手気ままな風来坊 神戸の片隅で

皆に世話になりながら 勝手気ままにと。

本年どうもありがとうございました。 また来年。

From Kobe Mutsu Nakanishi



<https://www.infokkna.com/ironroad/2019htm/1912yoshino.jpg>

◆ 金子書房 「ソーシャル・マジョリティ研究 -コミュニケーション学の共同創造-

発達障害者の側から ソーシャル・マジョリティ(社会的多数派)のルールやコミュニケーションを研究しました。

「障害は個人の中にあるのではなく、多数派が作った社会と少数派の身体特性の間に生じる」

なにかよくわからぬまま発達障害者とかたづけられ、排除される人が多数いる

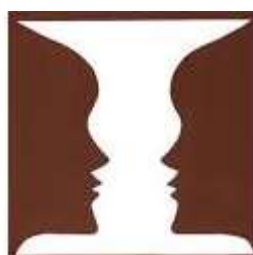
その人たちは社会的多数派のルールやコミュニケーションについてゆけないだけである。

逆に社会多数派があまり意識していないが、社会的多数派のルールやコミュニケーションが多数あることを理解し、そんなルールなどを障害者側に立って研究することで理解が深まれば、

お互いのコミュニケーションを生むことが出来て、より良い関係を生むことが出来る。

だまし絵 真実是一つなのか……

多数派のおごり by Mutsu Nakanishi



絵の中にだまし絵という世界がある。

このだまし絵 人のその時々感情・事情によって見え方が違う。

今 画一的になんでもかんでも AI に任せて判断させようとする。

知能ロボット万能論が伝えられている。

でも この知能ロボットにだまし絵を見せて アクションを起こさせたら、どんな反応をするのか???

興味津 AI の判断万能を唱えるのは間違いではないか……

上記したソーシャル・マジョリティ研究の理解にも このだまし絵の理解が欠くことが出来ないと思っている。

そもそも 現世人類が幾多の困難を乗り越え、

生き抜いてきた所以は相手の表情で共感・感応を醸成してきたからに他ならない。

【From Kobe 1月 年賀 年の初め】

2019 年激動の時代に 希望を膨らませ、心も新た 今を元気に

fkobe1901nenga.pdf

◎収録 心の故郷「縄文」と「鉄」に思いを馳せて

(h3101nenga.htm)

【From Kobe 2月 如月 節分 神戸便り】

fkobe1902.pdf

春迎え 2019 「福は内 鬼も内」

◎収録 1. 日本各地に伝承されている鬼 鬼にされた愛すべき仲間の鬼たちに思いを寄せて
2. 朝日デジタル 最近の縄文の捉え方に警鐘をならす編集委員・宮代栄一氏の記事
「エコロジカルな縄文人」とのイメージについての記事に接しての Iron road 発信の私の思い

【From Kobe 弥生 3月 春の足音がすぐそこに】

fkobe1903.pdf

どこかで春が生まれてる

◎収録 「平成の30年間、日本は敗北の時代だった 敗北日本、生き残れるか」

経済同友会代表幹事 小林喜光氏 <インタビュー>記事 転記ご紹介

2019.1.30 朝日新聞朝刊オピニオン欄 掲載記事 平成から新しい時代に向かって

【From Kobe 卯月 4月 待ちかねた春 さくらと共に春爛漫】

fkobe1904.pdf

野山・海も街・里そして人も 新生の息吹に満ちて

新しい出会いと出発に日々あらた 平成最後の春を元気に!

◎再収録 平成から令和へ 新しい時代に向かって

小林喜光氏「平成の30年間、日本は敗北の時代だった 敗北日本、生き残れるか」

【From Kobe 7月 神戸便り 遅れた梅雨のはじまりから酷暑の夏へ】

fkobe1907.pdf

遅れた梅雨の中で迎えた 7月 神戸便り 2ヶ月ぶりの更新 お元気ですか!!

経験したことのない初夏 目まぐるしく変わる気象変化に負けぬよう

◎収録 高度成長を支えた鉄鋼住金の名が消えた

【From Kobe 8月盛夏 2019 ひまわりの夏】

fkobe1908.pdf

2019 ひまわり夏 2019 雑感

今年も田園一帯を真っ黄色に染める元気なひまわりに出会ってきました。

異常気象をひしひしと感じる今年の夏

参議院選「嘲笑する政治」この夏 一番 私に響いた言葉 朝日新聞 2019.7.7.

【From Kobe 9 & 10月 初秋 Happy Autumn】

fkobe1909.pdf

10月初秋の便り Happy Autumn From Kobe

◎収録 新聞記事 朝日新聞 2019.9.27.朝刊 天声人語・オピニオン&フォーラムより

理念も目標も失い、いまだに高度成長期の流れにしがみついた日本

国民に何も説明せず、みくだす横暴な仲間政治 これではよいのだろうか…

【From Kobe : 11月 秋便り】

fkobe1911.pdf

11月秋便り Happy Autumn【2】From Kobe

◎収録 この秋に思うこと 色々 この秋 何度か耳にした情報

多重・多様化をキーワードに《柔軟な社会作りへ舵を切る》

【From Kobe : 12月 師走の便り】

fkobe1912.pdf

12月 師走の便り 12月 令和元年師走の便り色々あった1年 また来年

◎収録 師走の今 本年を振り返って 心に響いた言葉

【From Kobe 2019年 年の初めに】迎 春

2019 迎春の便り 本年もよろしくお願いします

収録：【2017 年年初の資料再録】「心の故郷「縄文」と「鉄」に思いを馳せて」ほか



和鉄の故郷 古代鉄の王国滋賀県湖北 伊吹山西麓 古代たたら郷 旧坂田郡 米原市伊吹 & 長浜市西黒田地区

堂々とした伊吹山の姿とともに坂田の金時 桃太郎田生誕の地の伝承が残っています。

「和鉄の道・Iron Road」〈古代たたら郷 湖北 伊吹山西麓 たたら郷に眠る「金太郎」伝承 walk〉

. <http://www.infokkna.com/ironroad/2018htm/iron14/1812ibuki00.htm>

「鉄」に携わって約50年 75歳 後期高齢者の仲間入りですが、まだまだ、好奇心いっぱい
元気に歩けることに感謝しつつ、相変わらず、気の向くまま、足の向くまま元気に
風来坊・Country Walk を楽しんでいます。

物忘れや頭の回転力・俊敏さの衰えはいかんともしがたしですが、
多くの人たちに支えられ、孫たちに振り回されることも多いのですが、
家族ともども元気に暮らしています。

皆様のご健康とご多幸を お祈り致します
仲間の元気を活力に!! 無理せず お互い元気にと
本年もよろしくお願い致します
2019年 元旦

by Mutsu Nakanishi from Kobe

◆ 2019 年 年のはじめに

日本人の心の故郷 「縄文」・そして太古から国土・海を豊かにしてきた「鉄」に思いをはせて

・ 2017 年年初【和鉄の道・Iron Road】に掲載した小文。色あせぬ思いに再度持ち出しました。

・ 心も新たに 年のはじめの思い 言葉足らずですが、お許しください。

私がよく口にする「縄文帰」・「日本人の心」、そして この変革の時代に新しい顔を見せる「鉄」

生命をつかさどる元素文明を支える元素として「鉄」がなければ人類は生きてゆけない
溶鉄の輝き「閃光」と鉄の黒光「肌光」その輝きの中に燦然と輝く「鉄」と人類の知恵の数々
人類が激変する地球を生き抜いてきた唯一の道・知恵が「他人を思いやる心」
かつて日本には 1 万年の長きにわたって平和な社会を持続した形成してきた時代があった
日本人の心のふるさとといわれる「縄文」そのエンジンが「縄文の心・他人を思いやる心」だった
「鉄」と「縄文の心」 激変 の今 時代を生き抜く唯一のエンジンである
現代社会においてはしばしば「なまっちよい」と呼ばれ、切り捨てられてきた「心」
でも 一旦危機災害に直面した時には 誰しもがその力強さに心打たれる「心」
「鉄」も今 激変する時代の中で、新しい姿を見せ、新しい役割を示し始めた。
「鉄は国家なり」の「鉄」から「豊かな海を育てる優し 鉄」・「地球温暖化を軽減するかもしれない鉄」へ



約70億人いる現代人のルーツをたどると

「我々は約10万年前 東アフリカにいた小さな集団のたった一人の女性の子孫」

人類はこのたった一人の女性の子孫という綱渡りの細い道でつながり、

今約70億を超える繁栄を謳歌している。

この間 繁栄を極めた幾多の原人祖先がありながら、苦難の道乗り越えられず、他はすべて絶滅している。

地殻変動活動発生の時期にさしかかた今、現代人が引き起こした地球環境変化による異常気象も加わり、
地球上どこにいても 巨大災害がわがにも降りかかる

「今まで経験したことのない想定外の災害」と他人ごとではすまされぬ時代

一方、今まで謳歌してきた高度成長・高度情報化社会を支えてきたグローバル化・効率・大量消費を
追い求めた国際金融中心の情報化社会のほころびが随所に。

また、戦争の脅威は一向に去らず、格差の増大と弱者切り捨て 一握りの富裕層と大多数の貧困層への
2極分化が進み、出口は見つからずますます幸福感が遠のいてゆく。

望むと望まざるにかかわらず、躍動の時代から 成熟社会・人口減少の「激変の時代」へ
人類が幾たびも経験してきた絶滅の厳しい淵に立っている。

人類が困難を生き抜いてきた力それは「仲間を大切に思う心の進化」と「集団の協力」

約1万年の長きにわたって永続した日本の縄文はその実証例

幼くして歩けぬ障害をもった少女が、年老いるまで

集落の人たちに見守られ、生活を共にしてきた例が見つかる。

「心優しき縄文人」「日本人の心の故郷」と言われる所以である。

また、「地球は鉄の惑星 もし 鉄が地球になかば、地球の生命体も生命を維持できず、存在しえない。
動物の血液中の鉄・植物の光合成にも鉄が関与し続けている。

山海の動植物の生態系も また「鉄」により、維持されている。

縄文の森を含め、太古の昔から、日本列島の沿岸には豊かな山・森があり、
最近「沿岸の山や森が豊かな海を育てる」「山は海の恋人」耳にするようになったが、
山に含まれている鉄分が森の植物によって、水に溶けこむ鉄となって、川を下り、豊かな海を育てる。
魚貝や海産物の資源の形成・生態系の循環には豊かな山や森の存在が欠かせぬことが明らかになっている。

ここでも「他人を思う心」・「集団の協力」をエンジンにした地方自立循環型経済創生・豊かな海や森の
資源開発が進められている。

鉄の惑星 激変する危機を生き抜くエンジンは「他人を思いやる心」

幸福への岐路にある今 スピード・情報過多の情報社会の流されず、自らをじっくり考えよう。

そこに地球に生きる仲間みんなの共存再生の道がある。

「心優しき縄文人」「分かち合い」の多様性 そして 沖縄には「命こそ宝」の言葉もある。

終活が頭にちらつく我々だからこそその役割もあると信じて今を前向いて

わが道をゆく God Be With You!!

また、本年こそ日本の縄文に 世界遺産の道が開かれますよう 期待を込めて

【関連の和鉄の道】

1. 「利他的精神」について 朝日新聞天声人語にこんな記事が・・・

[競争社会から成熟社会へ 日本に必要なのは「心の優しさ」では](#) 2014.6.1.

2. [NHK「ヒューマン なぜヒトは人間になれたのか」](#) NHK 取材班「Human ヒューマン」角川書店 2012.4.5.

3. [日本人の心の故郷「縄文」を世界の人たちに知ってもらいたい](#)

一万年も平和で豊かな生活が続いた時代 世界に類のない日本の「縄文」 そのエンジンは「他人を思いやる心」
日本人の心の故郷「縄文」 北東北・北海道の縄文遺跡を ユネスコ世界遺産に

4. 「岩波の科学ライブラリー「鉄学 137 億年の宇宙誌」を読んで 2010.3.5.

[地球誕生から約 46 億年 鉄の歴史と役割にびっくり](#)

5. 雑誌「岳人」2016 年 2 月号掲載 第 18 回「鉄の誘い」

[皇山重篤氏「鉄の誘い」 山と海の出逢いつなぐりと恵みを巡る旅](#) 2016.3.16.

ホームページ更新時 ふと思う時代の流れから取り残されている疎外感・・・・昨年以上になお一層。

でも 愚痴はいうまい。老い行く中で、頭にあるのは「平和」・「穏やかな暮らし」のこと。

でも 今年は薄っぺらな高度情報社会への疑問が、私ばかりでなく、多くの人から語られるようになった。

日本の危機に対する叫び。でも それが政権・経済のリーダー層に届かない。

自分の成功体験と仲間頼みに縋りつく日本のリーダー層。うすっぺらな日本の情報化社会等々が見え隠れ。

今年も続く傲慢・独りよがり、アメリカ追従の仲間政治。技術立国日本がもろくも崩れ行く中、日本が国際社会から取り残され、幸福感が日に日に遠のいてゆく。一方 東京や大阪そして神戸の街の真ん中をニコニコ顔で歩く幸福に満ちた大勢の外国人たち。TV やマスコミ 政治家がまくしたてる言葉と現実の落差のいかに大きいことが……

自分の立つ位置をはっきりして、自分でしっかり考えないと一人取り残されてしまう。

前向いて平和の叫び・安定な暮らしを訴え続けたい。

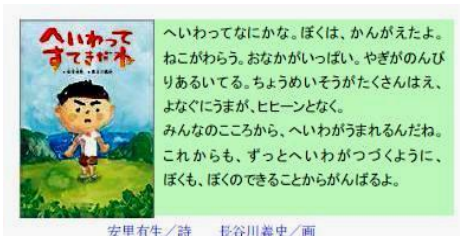
薄っぺらな情報社会からの脱却に一度 耳を傾けてほしいと。今一度 日本の現実に眼をむけねばと。

平成 7 年 1 月 17 日 午前 5 時 46 分 阪神淡路大地震
阪神・淡路大震災が発生し、私たちの大切なものを数多く奪ってしまいました。
また、初めてルミナリエの灯がともった神戸の夜の感激も
あの震災から 24 年 忘れない わすれまい 神戸の街の記憶を
神戸ルミナリエ 今年もたくさんの笑顔にであえました
ルミナリエの光の環の中で、ともに集えたことに感謝し、
ともに生きるありがたさと平和な暮らしを託す



018.128. 神戸ルミナリエ

● 平和を願って 決意も新たに!!



◆ 安里有土君の詩 (2013.6.23.発表当時小学 1 年生)

「へいわって すてきだね」

この願いもいつも心に響く。

平和憲法は日本の柱 平和憲法を守ろう

国の大きな転換点 今 声を上げねば !!

平和を今 自分の頭で考えよう

老齡の身には 厳しい激動の時代 お互い笑顔で 日々新た
今できることを精一杯 無理せずゆっくりと
「まあええか 元気だして行こう」と励まして 心は行ったり来たりですが、好奇心さえあれば……
また、ジョージ カーリンの「ストレスをためずに100まで」の言葉もうれしい。
なかなかむづかしい時代。 ジョージ・カーリンの名言「老いを楽しく生きるために」
それだけに心に響く。

多くの人にささえられながらも
また、1年 本当に感謝です
頭も回らず、更新不定期になって
いますが、まだまだ、知りたい事多し。

後期高齢者になった本年、心も新た
神共に居まして
変えられるものを 変える「勇気」
変えられないものを 受け容れる「心の静けさ」
そして、両者を見分ける「叡智」を

ニーバーの祈り より

God be With you !! と祈る

また、困難の中に居られる方々に
いつも 我が身に感謝しつつも、いつも思いをはせて、エール!! を送っています。
「忘れまい 忘れないで。 仲間がいる、暖かい希望の輪がつながっていることを」
日々新た 今できることを 精一杯 無理せずゆっくりと

まだまだ、好奇心もある。毎日健康で動ける我が身に感謝しつつ
この激動の時代を元気に前向いて わがみちをゆくと。
本年もよろしくおねがいします。

仲間がいる 仲間の元気を活力に!!
お互い 無理せず元気に前向いて 今日も一日 Good Day!
まだ好奇心もある 我が身の健康に感謝しつつ、また 一年
互いスクラム組んで 前むいて 老いを笑顔で
God Be With You!!

2019.1.1. Mutsu Nakanishi From Kobe

《 いつまでも若くいるコツ 》 by ジョージ カーリン

1. 年齢、体重、身長など、どうでもいい数字は気にしないこと こんな事は医者任せよう。
そのために医療費を払っているのですから。
2. 元気な友達とだけ付き合うこと
愚痴しか言わない人といくと、こちらの気持ちも暗くなります。
3. 生涯学習あるのみ コンピュータ、工芸、ガーデニング、ハム無線、なんでもよいので学ぶ姿勢を持ちましょう。
脳を怠けさせない事。怠けた心には、衰えという悪が宿ります。
4. 単純な事を楽しみましょう
5. 沢山、長く、大きな声で、お腹が痛くなるくらい笑いましょ
6. 悲しみ、耐えて、そしてまた進む 涙も出るでしょう。しかし一生付き合い合ってくれるのは、自分自身です。
命ある限り、自分の人生を歩みましょう。
7. 好きなものに囲まれて暮らしましょ
家族、ペット、思い出の品、音楽、植物、趣味、何でもいのですから好きなものに囲まれて暮らしましょ。
家は自分の居心地の良い場所なのですから。
8. 体を大切に！ 今健康ならそれを維持し、悪いなら、改善に努めそれが無理なら、助けを求めましょ。
9. 後悔しないこと ショッピング、隣町、外国、とにかく後悔する気持ちを忘れさせてくれる場所に出かけましょ。
10. どんな時でも、大切な人に「愛している」と伝えましょ

そして忘れてはいけない事： 人生とは、自分が息を吸う数ではなく息を吐く瞬間で測定するものです。
充実した毎日を生きましょ!!



【From Kobe 2019年2月 如月】 節分・立春の候 春迎え
 春の足音 すくそこまで 春が.....



2019年 2月如月 春迎え 福は内 鬼も内
 春はもうそこまで、北風小僧に負けぬよう

収録：

1. 日本各地に伝承されている鬼 鬼にされた愛すべき仲間の鬼たちに思いを寄せて
2. 朝日デジタル 最近の縄文の捉え方に警鐘をならす編集委員・宮代栄一氏の記事

「縄文=ユートピア」はホント？ 食料争奪の可能性／森林破壊も 2019年1月15日11時00分

「格差も戦争もない」本当？ 縄文時代、見えてきた実態 2019年1月31日11時00分

最近語られる「エコロジカルな縄文人」とのイメージについて、違和感を抱く

この記事に接して Iron road 縄文発信の私の思い



2019. 1. 22. 神戸の街・六甲の山並みを背に神戸兵庫港(清盛)



毎日寒い日が続きますが、元気な声が街を駆けてゆく 北風小僧に負けないで 春遠からじ



2019.1.22. 兵庫の津 兵庫大仏 毛糸で編んだ仏像と



1. 日本各地に伝承されている鬼 鬼にされた愛すべき仲間の鬼たちに思いを寄せて



春迎え 2019「福は内 鬼も内」

この季節になると毎度ながら、「鬼」が気になる。「鬼」は自分たちとは異なる集団を「鬼」として排除してきた遠い昔の名残り。そんな中に「鬼」とされた古代の製鉄集団もいたという。

「開拓神」となった鬼 在地の衆に災いをもたらすとして退治された鬼。

「災いをもたらす」として恐れられたが接触が続く中で仲間となった鬼もいる。

「いつも一生懸命働きながら 騙されて退治される」そんな「仲間の鬼」が日本各地で語り継がれてきた。

また、災いをもたらす鬼が退治・改心して、神に従う鬼・神の化身となって災いを追い払う鬼もいる。

「鬼は外 福は内」と言いながらも うちでは鬼に感謝し、憎めない。

「地球上に生きとし生けるもの みな共生する仲間」

そんな愛すべき鬼たちに「縄文の心」「日本人の奥深い心情」を見る。

日本人の心の原点「共生」が ここでも培われてきたと。

****「鬼にされた愛すべき仲間の鬼たち」の鬼伝承やことわざ****

◎「仲間としての鬼」- 鬼にされた たたら製鉄集団 -

<http://www.infokkna.com/ironroad/2014htm/iron10/1402oni00.htm>

◎「日本各地の鬼伝説」和鉄の道・Iron Road 掲載リスト

<http://www.infokkna.com/ironroad/2013htm/iron9/13iron01list.pdf>

◎「日本人の心の故郷「縄文」

<http://www.infokkna.com/ironroad/2015htm/iron11/jyomonslide.htm>

一万年も平和で豊かな生活が続いた時代 世界に類のない日本の「縄文」

そのエンジンは「他人を思いやる心」

日本人の心の故郷「縄文」北東北・北海道の縄文遺跡をユネスコ世界遺産に



■ 東北の「鬼」 鬼にされた阿弖流為・アテルイのこと

幾度となく訪れた東北の各地で、「蝦夷」と呼ばれた時代の人たちへの強い愛着と近親感に出会って、強烈な印象と新鮮な驚きを受けました。この時期「鬼」の話になるといつも気になる東北の「鬼」。

「あの高嶺 鬼住む誇り 音の瀬音 久遠の賛歌

この大地 燃え立つ命ここは北上」 北上市 市民憲章より

<http://www.infokkna.com/ironroad/2008htm/walk5/0802oni00.htm>



古代大和朝廷に鬼とされた 北上(日高見)の「鬼」・蝦夷の族長「アテルイ」



2. Iron Road の出会いの中で 気にかかる縄文のこと

朝日デジタル 最近の縄文の捉え方に警鐘をならす編集委員・宮代栄一氏の記事

「縄文=ユートピア」はホント？ 食料争奪の可能性／森林破壊も 2019年1月15日11時00分

「格差も戦争もない」本当？ 縄文時代、見えてきた実態 2019年1月31日11時00分

最近語られる「エコロジカルな縄文人」とのイメージについて、違和感を抱く

この記事に接して Iron road 縄文発信の私の思い

最近 朝日デジタルに立て続けに、上記のような見出しで、「縄文」ブームの中、その捉え方に警鐘を鳴らす記事が掲載された。home page Iron Road・和鉄の道で「縄文」について 発信している私にとっても、しっかり受け止めねばならぬ警鐘 記事を紹介するとともに、「縄文」に対する私の思いについて 書き記しました。詳細は省きますが、記事を読み、私の受け止めとして抜き書した骨子は次の通り。



■ 2019年1月15日11時00分

「縄文=ユートピア」はホント？ 食料争奪の可能性／森林破壊も

「縄文」が注目を集めている。東京国立博物館で昨夏開かれた「JOMON」展は35万人を動員。ネットなどでは「格差も戦争もない」「自由でエコロジカル」といった、理想郷のような見方も広がる。最近の研究から、縄文時代の「本当の姿」を考えてみる。

「もし、自分が『縄文時代に暮らしてみませんか』と聞かれたら間違いなく断ると思いますね」と県立郷土館の岡本洋学芸主査は話した。

「縄文の人々は火を放つなどして集落周辺の森林を切りひらいていたが、当時は自然破壊より自然の復元力がまさっていたので、回復していた。現代的な意味で、彼らが環境に優しい暮らしをしていたとは言えないと思います」

■ 2019年1月31日11時00分

「格差も戦争もない」本当？ 縄文時代、見えてきた実態 との掲載記事

最近語られる「エコロジカルな縄文人」とのイメージについて、違和感を抱く

「発掘調査の結果、津軽平野などの集落の集中場所では、集落の存続期間が短いものがあることがわかってきた。食料が尽きると、新たな資源を求めて集落自体を移転させていたと考えられるという。木の実を保存して通年の主食とした一方、大型獣からカエルまであらゆるものを食べて飢えをしをのいだ。決して豊かな時代ではないんです。最近語られる「エコロジカルな縄文人」とのイメージについて、国立歴史民俗博物館の山田康弘教授は「違和感を抱く」と語る。

縄文時代の人口は少なく、最多の時期でも日本列島全体で26万人程度（人口密度で1平方キロあたり0.7人）にすぎなかった。「縄文の人々は火を放つなどして集落周辺の森林を切り開いていたが、当時は自然破壊より自然の復元力がまさっていたので回復していた。

現代的な意味で、彼らが環境に優しい暮らしをしていたとは言えないと思います」

近年は縄文好きのアマチュアが出ず解説本も多い。

阿部教授は「必ずしも理詰めで書かれていないが、専門家の本よりとっつきやすいのかもしれない。

一般の人とを結ぶ役割を果たしてくれれば」と期待しつつ、「理想郷」のイメージが再び拡散することを危ぶむ。

読んだのはデジタル版の抜き書きで、意が十分伝わったかどうか、気になりますが、論旨はおおむね上記の通りです。

私も和鉄の道・Iron Road の中で「縄文帰りの勧め」「日本の心の故郷 縄文」「一万年も平和で豊かな生活が続いた世界に類のない日本の「縄文」社会 そのエンジンは「他人を思いやる心」だった」と何度も掲載しています。また、私にとって この2月はずっと今の暮らしや我々のルーツに思いをはせる時期でもあり、自分自身の縄文に対する認識と思いを発信しておかねばと考えてこの文を書いています。

私も縄文の暮らしはこの朝日デジタルの記事の通り、過酷で厳しい自然環境の中での生活だったことには異論ありません。「縄文は厳しい暮らし」であり、「あんのんとした平和で豊かな暮らしが続いた」との認識はなし。この厳しい暮らしの中で「共に生きる」の暗黙のルールの中で生き抜くことが出来たのが縄文だと。現代人の暮らしをそっくり縄文に移入するかのよう、そこで暮らすなどと持ち出すことこそがおかし、仮想現実の持ち込みだと。

ところが、今の高度情報社会の行き過ぎの中で、現実と仮想現実の境が無茶苦茶に混同破壊され、その悪癖がそのまま我々の生活にも影を落としているのも事実。

だからこそ なおさら 遠く離れたルーツまで遡り、社会を見つめることに大きな意義があると考えています。地球環境が激変する時代に生きる中で、格差・対立が激化し、戦争・核の脅威が日増しに高まる厳しい現実。

「あんとんとひとまかせ」の仮想現実にしがみつくななどできないとの不安がよぎる。

厳しい環境と苦難に何度も遭遇しながらも命をつなぎ、生き延びてきた人類

そして 1 万年の長き持続社会を築いた世界に誇る日本の縄文。

その「key」は何か????? 「相手を思い、助け合う共生 それが知恵・活力となり、永続の原動力」だという。

「人類・縄文」を持ち出さなくても 近くは原爆・大震災。そして日々の暮らしの中にもその証拠はいくつも見つかる。だが、今の社会ではそれがストレートに出せない現実がある。

そんなこともあたまにあって、バーチャルでなく自分の目で、縄文が共有してきた理念・文化そして生き様を語り合いたいと「縄文帰りの」「日本の心の故郷縄文」と呼びかけている。

世界に類のない日本の「縄文」そのエンジンは「他人を思いやる心」

北東北・北海道の縄文遺跡を ユネスコ世界遺産に 2019.2.3. 節分 縄文に思いをはせて Mutsu Nakanishi



春はもうすぐそこまで

仲間がいる 仲間の元気を活力に!!

お互い 無理せず元気に前向いて 今日も一日 Good Day!

まだ好奇心もある 我が身の健康に感謝しつつ、また 一年

互いスクラム組んで 前むいて 老いを笑顔で

2019.2.5. Mutsu Nakanishi from Kobe



【From Kobe 2019年 弥生3月】春の足音が すぐそこに!!
 弥生三月 どこかで春が生まれてる

2019 Kobe
 Fkobe1903.pdf



老いを日に日に感じる世代ですが、新生の息吹きを胸一杯吸い込んで
 ひるまず前向いて 無理せず元気に今を

待ちかねた春到来 春の足音が すぐそこに!! 時代が変わる 平成31年の終わり
 収録： 時代が変わる 新しい時代を生きる助けになれば -最近の新聞記事より-
 財界の重鎮 小林喜光氏の視点に見る平成30年間
 2019.1.30 朝日新聞朝刊 オピニオン欄 掲載記事
 経済同友会代表幹事 小林喜光氏 <インタビュー>記事 転記ご紹介
 「平成の30年間、日本は敗北の時代だった 敗北日本、生き残れるか」

いつもの散策の道 梅の花の香りがほのかに漂い、遠く見晴らす明石海峡も春霞。足元を見ると春の草花も咲き
 始め、庭に鶯もやってきて 初鳴き うれしい春の到来。揺れ動く激動の時代の中で、この春で平成の時代が終
 わり、新しい時代を迎えます

なんとかインフルエンザを乗り切ったと思ったら、早くも花粉症。
 後期高齢 老化を感じる歳になりましたが、お互い無理せず 元気に
 最近の世相を思いつつ、新しい時代の開始と若い人たちに期待一杯
 老齡の我々にも脇から Follow の役割を果たさねばならぬと。
 また、迫りくる老化や病気・困難に直面している人たちを思いつつ、
 God be with You!!

家族・仲間の笑顔を活力に我が道を行く。

2019.3.5. Mutsu Nakanishi from Kobe



弥生三月 どこかで春が生まれてる

老いを日に日に感じる世代ですが、新生の息吹きを胸一杯吸い込んで

ひるまず前向いて 無理せず元気に今を

■ 春の到来と共に時代が変わる 新しい時代を生きる助けになればー最近の新聞記事よりー

1. 2019.1.30 朝日新聞朝刊 オピニオン欄 掲載記事

経済同友会代表幹事 [小林喜光氏](#) <インタビュー>記事 転記ご紹介

「平成の30年間、日本は敗北の時代だった 敗北日本、生き残れるか」

2. 2018. 11. 29. 神戸新聞朝刊 指路 21 欄 掲載記事

評論家 [内橋克人氏](#) <評論>記事 転記ご紹介

「安倍外交の実相 目立つ内外の食い違い 国を危うくする言いつくろい」



平成の30年間 昭和の高度成長期から、グローバル化とIT高度情報化と成熟高齢化の社会が、並行して急激に進んだ時代だった。この時代 昭和の成功体験を持つリーダーたちが、日本を動かしてきた時代でもあった。

その後、激変ともいえる急速な社会展開の中で、従来の経験では対応できぬ国境を越えた高度情報化社会が形成され、もはや個々1国では制御できぬ時代に入っている。また、この間 地球の温暖化がもたらした気象環境の激変と活動期に入った地球がもたらした激甚災害の発生が追い打ちをかける。この国際社会全体を巻き込みつつ激動変化してゆく時代に、日本では日態依然一握りのリーダー層たちの成功体験に頼り切る薄っぺらな国際化・グローバル化と数頼みの利那の時代対応。

何一つ太刀打ちできなかった日本。 今や出口の見つからぬ閉塞感漂う中で迎える新時代である。

地球の異変・社会の異常を誰もが身近に感じる時代に、我が身さえよければではどうにもならぬと。

また、気が付けば、ひとり閉じこもっていても 誰も手を差し伸べてくれぬ厳しい現実。

この平成の30年 日本は敗北の30年だったと総括するリーダーもいる。

出口はあるのか・・・ でも 新しい時代はやってくる。

30年間の総括反省の中で、新しい潮流 若者たちの力にも期待したい。

あの「辺野古の県民投票」を主導した沖縄の若者たちの考え方と行動はその一つか……

成功体験に縋りつくリーダーたちには早くリタイアを願い、中央を若者たちに譲り、山住の諸問題と立ち向かって、

この閉塞感を打ち破ってほしい。また、熟年高齢者も経験が生きるフォローアーとして、新しい生き方を切り開かねばと。

色々考えねばならぬ時代替わり。手放しでは喜べぬ平成最後の春です。

また、この弥生三月 忘れてならぬ3.11.のこと

東日本大震災と原発事故そして さらに昨年も新たな自然災害が多発

被災者の皆さんの復興はまだ道半ば さらに自立支援・救済の手が差し伸べられますよう

政治はいまだに東京一極集中と大型プロジェクトにしか目が向かぬのか……………

負け惜しみは言うまい技術立国日本の地位も今や東南アジアの諸国にも追い抜かれそうな現実直面している。

日本の今を見れば、原因は明らか この平成 30 年を動かしてきた政治の責任は極めて重い。

今 自らの次回も含め、年寄りも 若者も新しい道を踏み出さねば・・・

「自ら 替わろう 変えよう 日本を」と

春の到来を楽しんでばかりはいられぬ社会情勢に、 なにかメッセージおくらねば..... と思うのですが、頭回らず。

日頃ぶつぶつの私の思いに近い2つの新聞記事が目に残りましたので、新しい時代を考えるさんこうになればと

本月のFrom Kobe としました。

1. **2019.1.30 朝日新聞朝刊 オピニオン欄 掲載記事**
経済同友会代表幹事 小林喜光氏 <インタビュー>記事 転記ご紹介
「平成の30年間、日本は敗北の時代だった 敗北日本、生き残れるか」
<http://www.infokkna.com/ironroad/2019htm/2019mutsu/fkobe1903kobayashi.pdf>



1月30日朝日新聞朝刊に掲載された財界の重鎮小林喜光氏のインタビュー記事にびっくり。

小林喜光氏の熱い思いの発言に釘付けになった。

日本の現状に日本を牽引する財界トップリーダーの一人人とは思えぬ厳しい発言と指摘が並ぶ。

すべてがすべて、今後の道に必要とは思いませんが、日本の現状や指摘・そして方向性には承服。ビックリする明快さ。

日本の社会の現状がおかしいと思いつつも、なかなか口にできなかったことが、ストレートに記事にされている。

それも、現状肯定一辺倒と思っていた財界人の口から.....。

私だけではないんだ。 思いは同じで、もやもやしていた思いがすっきり整理できて、気持ちがいい。

また、ちょっと視点がいつも重厚長大・製造業重視に偏る私の頭もガソンと....。

出口すら見えぬ課題山積の日本。 そして老害が蔓延する日本を端的に指摘するコメント。

さあ 日本はどう動いてゆくのだろうか...

ご承知の方も多いと思いますが、参考になればとできるだけ、記事を忠実に整理転載しました。

いつも勝手なことをぶつぶつ言う私にとっても反省と良い刺激となりました。

いうはやすし。頭は回らぬが 好奇心・突き進む力もまだある。大勢に飲み込まれぬよう がんばらねば.....と。

2019.1.30. 朝日新聞 小林喜光氏インタビューの記事に接して from Kobe Mutsu Nakanishi

◆ インタビュー記事のトップに記載された 小林喜光氏のプロフィール

1946年生まれ 相関理化学専攻 イスラエル留学などを経て

74年に、三菱化成工業(現三菱化学)に。2015年から経済同友会代表幹事

1946年、新進の企業人83人がつくった経済同友会。経済再建を誓った設立趣意書には、「全く新たな天地を開拓しなければならない」「同志 相引いて互に鞭うち脳漿をしばって」と熱い言葉が並ぶ。

以来70年余。同友会を率いる小林喜光さんの頭を離れないのは「日本が2度目の敗北に直面している」との危機感だという。技術は米中が席巻。激変に立ち遅れ 挫折の自覚ない。

◆ 小林喜光氏 インタビュ 記事 新聞掲載要旨 水色はインタビュアーの質問 ◆

2019.1.30. 朝日新聞掲載 小林喜光氏インタビュー 聞き手 編集委員・駒野剛 より

● 平成の30年間、日本は敗北の時代だった 事実を正確に受け止めなければ 再起はできません。

今では、グーグル、アップル、フェイスブック、アマゾンという『GAFA』と、アリババ、テンセントなど米中のネット系が上位を占め、モノづくりの企業はほとんどない。日本はトヨタ自動車が四十数位で、そこまで差がついた。

企業の盛衰が反映する国のGDP(国内総生産)でも伸び悩む日本に対し、米中は倍々ゲームで増やしていった。テクノロジーはさらに悲惨です。

かつて『ジャパン・アズ・ナンバーワン』などといい気になっているうちに、半導体、太陽電池、光ディスク、リチウムイオンバッテリーなど、最初は日本が手がけて高いシェアをとったものもいつの間にか中国や台湾、韓国などに席巻されている。もはや日本を引っ張る技術がない状態です

● 事実を事実として受け止めないから

「GAFAみたいな世界もすぐ追いつける」とのんきな気分で見られるんでしょう。

そもそも失われた20年とか、デフレマインドの克服とかいうこと自体が本末転倒です。

安倍晋三政権、アベノミクスが唱えられ 「財政出動、金融の異次元緩和を進めるから、それで成長せえ」といわれました。しかし本来は時間を稼ぐため、あるいは円高を克服するために取られた手段で、それ自体が成長の戦略だったわけではないのです。この6年間の時間稼ぎのうちに、なにか独創的な技術や産業を生み出すことが目的だったのに顕著な結果が出ていない。ここに本質的な問題があります。

内閣府の2018年6月の調査でも74・7%の国民が今に満足していると答えています。

18～29歳では83・2%ですよ。

心地よい、ゆでガエル状態なんでしょう。日本全体は挫折状態にあるのに、挫折と感しない。

この辺でいいやと思っているうちに 世界は激変して 米中などの後塵を拝しているのに、自覚もできない。

カエルはいずれ煮え上がるでしょう

● 国家の未来図が描かれないままの政治が与野党含めて続いてしまったためです。

今さえよければ、自分さえよければ、という本音の中で、国民も政治家も生きてきた。

周りが敵ばかりのイスラエルや、覇権を維持するためには科学を前に進めなくてはならない米国などと違い、皆で楽しく生きていきましょうという空気を取り巻いて敗北を自覚しない。

運動会で「みんな一緒にテープを切りましょう」と競争自体を忌み嫌った時期もあった国だから無理もない」

● 敗北が見える、自覚できる事態になると・・・

地政学では三つの選択肢がある。今は米国依存ですが、さらに従属を深めた米国の別種の州として生きていく。これを断ち切れれば、うっかりすると中国の一つの市、北京や上海になる形もあり得るでしょう。

どちらも嫌だ。日本は日本だと独立を守り、米中の中で中立を保つことも可能性としてはある

経済、技術を通じた地経学的な見地が死活的に重要です。現在は歴史的な革命期にあると皆が認識すべきです。

5GもAIもサイバーセキュリティも日本は本当に遅れてしまい、基幹的な技術を欧米や中国から手に入れないと産業、社会が立ちゆかなくなる。外国政府や企業の意向を無視しては国家全体が成り立たなくなる。リーディングインダストリー（成長を引っ張る産業）を自国の技術で育てることができず、他国の2次下請け、3次下請けとして食いつなぐ国になってしまう

● **抜け出すのも至難 息継ぎのために国債が乱発された結果、財政に余力はなく、持続可能性が疑問の現状**

GDPを増やそうとして逆に国内の総負債を増やしたんです。

6年間で約60兆円のGDPが増えたといいますが、国と地方の借金は175兆円も拡大しました。

これで次の世代に引き継いでいけるでしょうか。

一方で5Gや半導体、量子コンピューターなど次世代が利用する技術の研究開発費は欧米や中国に出遅れている。

● **アベノミクスに小林さんを含め、財界も手をさしのべた。結果的に時間稼ぎに加担した責任は軽くない ……。**

非常に問われている。矜持（きょうじ）を持つ財界人が少なくなりました

経営者として、あるいは社会的公器のリーダーとして、社会に対して強く関わって変革していこうという意志を持った人の絶対数が減ったんです。

● **かつて土光敏夫さんが臨時行政調査会を率いて行政改革を進めた頃、財界には高い権威がありました。**

でも ネット社会のいまは、財界トップと言っても、持っている情報が一般の社員と比べて特段に優れているわけでもないから、社会的地位も特段に高いわけでもない。そうした状況で、官邸1強体制の中、経済財政諮問会議や未来投資会議など政府の意思決定過程に組み込まれてしまえば、できることもたかがしれている

● **変えていくためには……………**

まずは財界トップに権威のない時代だと自覚する。だからこそ財界人だけで群れて固まらず、

学界や知識人、若い人たちも含めた幅広い団体、いわば知的NPOを作って意見を交わし、社会に問いかけ、政治に注文する。そういう柔軟な形でないと世の中は動かなくなっている。

まず知的NPOとして活動する場として、今度の大阪万博などは、よい機会になると思います。

お金集めなどは二の次です。世界に向けて何を考え、何を訴えるのか、それが本質です

● **日本の衰退が心配な半面、世界は一国主義や分断が広がっています**

一国主義を主張する政治家は選ばれた存在に過ぎず、選んでいるのは国民です。悪いのは国民です。

各国で国民が劣化したんです。偽りと真実を見極めることが民主主義の原点なのに、それができずに独裁者を生む。プーチン氏や習近平氏であり、西側でもそういう連中ばかりになってきた。

劣化は老いから始まったと思います。老いて勉強しない。考えない。新しいものに果敢に挑み、切り開くエネルギーも 枯渇してきました

● **先進国は老いたのですか……………**

文明は老いるものです。ローマしかり、大英帝国しかり。新しい血と混ぜることを嫌えば衰退に向かう。

それが世界史です。トランプ氏が壁造りに躍起になっていますが、外国からいろんな人がやってきて 活性化してきたというエネルギーを馬鹿にしてはいけません。日本は「弱きを助け、強きをくじく」といった大和心は残しつつ、進取の気性を培わないと、挫折したまま滅んでしまう。単なる労働力として外国人を入れるのではなく、勉強する、考える日本人を増やす触媒の役割を担ってもらうべきです。

● **社会にはストレスが生まれませんか……………**

だからいいんです。無用な対立はいけませんが、異文化と接することで日本本来の文化も磨かれる。

陳腐化したものは淘汰（とうた）される。そうした新陳代謝を怠ったのが、残念ながら平成時代の一つの性格です。異文化とワイワイガヤガヤやって実力がつくのです

2019.1.30. 朝日新聞掲載 小林喜光氏インタビュー 聞き手 編集委員・駒野剛 より

できるだけ記事に忠実に転記整理させていただきました

2019.2.5. by Mutsu Nakanishi from Kobe

◆ 2019.1.30. 朝日新聞掲載 小林喜光氏インタビュー記事紙面 file

<http://www.infokkna.com/ironroad/2019htm/2019mutsu/小林喜光氏記事.jpg>

<http://www.infokkna.com/ironroad/2018htm/2018mutsu/fkobe1812uchihashi.pdf>

【 From Kobe 2019年 待ちかねた春 春の訪れ 4月 】

平成から令和へ この春元号が変わり、激動の時代の中で

🌈 野山・海も街・里そして人も 新生の息吹に満ちて さくらと共に春爛漫

新しい出会いと出発に日々あらた 平成最後の春を元気に!!

再収録 参考 激動の平成 30 年 小林喜光氏の視点に見る 30 年間

時代が変わる 新しい時代を生きる助けになれば ー最近の新聞記事よりー
 財界の重鎮 小林喜光氏の視点に見る平成 30 年間
 2019.1.30 朝日新聞朝刊 オピニオン欄 掲載記事
 経済同友会代表幹事 小林喜光氏 <インタビュー>記事 転記ご紹介
 「平成の30年間、日本は敗北の時代だった 敗北日本、生き残れるか」



車集落田園地・緑ヶ丘越しに芽吹きが始まり草木燃ゆ 西六甲連山山腹には点々と咲き始めた桜・ミツバツツジのピンクも



4月 さくらと共に春爛漫

新しい出会いと出発に日々あらた

野山も里も草木萌え、新生の息吹に満ち満ちて

街には新しい門出の若者たちの華やいた声が響く

生命観あふれる うれしい季節に 気分も新た

若者たちに「カー杯飛び出せ!!」とエールを送る

今でないとの思いも強い老いの毎日

好奇心もまだある お互い無理せずを前向いて



4月21日 イースター・復活日

3月下旬アーモンドの木が桜に先駆けて 薄いピンクの花をいっぱい枝につけて咲きます。

うれしい春を告げる花の一つです。

アーモンドの花言葉は「希望」「愛」「優しさ」

アーモンドの香りが漂う春

「神とともに います」の思いも日々新た

また、この時期 菜の花の時期と重なり、

野山も里も草木萌え 生命観あふれる うれしい季節

菜の花にも「幸せ」の願いを託し、

病気や老いの克服など幾多の困難の中にいる仲間や

多くの人達に思いをはせる。

わが身の今を感謝し、 平和で穏やかな暮らし

そして迫りくる老いに 今を元気にと祈る。]

好奇心もまだ旺盛 Stay Yang Day!!

4月21日 イースター・復活日

愛と希望と幸せが みんなに 降りそそぎますように

草木萌え 花の香漂う春 身も心もあらた

神共にいまして 行く道を守りたもう

新生の息吹に満ちて 我が道を行く

God Be with You !!

今の我が身を感謝しつつ

家族・仲間そして世界のみんなに思いをはせています

桜に先駆けて咲く
「アーモンドの花」アーモンドの花の香りが漂う春
花言葉は「希望」「愛」「優しさ」Happy
Easter
2019

まだまだ元気 好奇心はある

仲間が頼りですが、今できることを精一杯

体を大切に! 今健康ならそれを維持し、

思いなら、改善に努めそれが無理なら、助けを求めましょう。

ジョージ・カーリン「若いを楽しく」より

2019年 Easter
Mutsu Nakanishi from Kobe

＜ 新生の息吹に満ちて 桜満開で一機に華やぐ 神戸の春 ＞

野山も郷・街も 新生の息吹に満ちる ハッと気が付く神戸の春【1】 妙法寺北の若草の丘で



若草の丘も桜が咲き、南の遠くかすみ須磨阿蘇を背に眼下の車集落の田園地・緑ヶ丘 2019. 4. 1.



4月 我が家の庭も門崎も 一斉に花が咲いて うれしい春爛漫 2019.4.1.
野山も郷・街も 新生の息吹に満ちる ハッと気が付く神戸の春【1】 妙法寺北の若草の丘で

**野山も郷・街も 新生の息吹に満ちる 神戸の春【2】 神戸の市街地 再度山の山裾
宇治川沿いの桜並木は満開近し 一気に気分も晴れやかに**

神戸の一本桜「奥平野の舞桜」がある水の博物館の丘のすぐ下 2019.4.1.
神戸の一本桜「奥平野の舞桜」は 昨年より遅れています



神戸平野 水の科学博物館の丘から「舞桜」が見下ろす宇治川沿いの桜も満開 素晴らしい桜の春到来 2019.4.1.



奥平野「舞桜」 2018.3.28 神戸水の科学博物館

市街地を見下ろす再度山麓の丘 水の博物館に咲く神戸の一本桜 「奥平野の舞桜」 2019.4.1.
昨年は3月末にもう満開でしたが、今年はまだちらほら咲き あと1週間が待ち遠しい

2019年 待ちかねた春 4月さくらと共に春爛漫

平成から令和へ 時代が変わる 激動の時代を元気に From Kobe

「みんなに 明るい元気なメッセージを送りたい。春爛漫 桜のメッセージを!」と思いはいたり来たりです。

野山・海も街・里そして人も 新生の息吹に満ちて 新しい出会いと出発に日々あらた
昨年(2018)の4月は 地球温暖化の影響が強く現れ、春の訪れが早くから、「三春」「四春」に。

でも 今年(2019)は暖かさと寒さが入り混じり、自然も街の様子もどうも遅れがち。

一方 世相は混とん 薄っぺらな利己刹那の情報化社会の悪癖がいたるところで顔をだし、
後期高齢となった今「取り残されている」との感が募る。また、老化と闘っている仲間も随分多くなった。

春爛漫と浮かれてばかりはいられないが、若者たちにとっては門出の春

また、「平成」から「令和」へ元号が替わり、新しい時代へ

平成の30年間 高度成長の昭和から国際グローバル化・高度情報化の厳しい競争の荒波にさらされつつ、急激な高齢化社会へに突入し、なかなか幸福感が味わえぬ閉塞感が漂う社会に。私にとっては、そんな高度成長から国際競争にさらされる激動の中で、会社生活から風来坊へ一機に身の置き所を変えた時代。

いろんなことが頭をめぐる30年でした。

また、この間続けてきた「和鉄の道」Walk。一年一年掲載してきた記事の積み重ねは 私の平成行動記録でもある。
もう「和鉄」「Iron Road」「たたら製鉄」の言葉も広く使われるようになり、私の勝手な記録など もう役立たんなあ…」
と思いつつも興味は尽きず。 自分史の一部であり、その年々の歳時記にと時折 引っ張り出しては楽しんでいます。

みんなに春爛漫の元気な便りが発信できるか、気をもむ中 4月1日 神戸の桜も間に合って うれしい春に。
毎日のWalkingの道すがら、移り変わる春の景色に目を奪われ、新しい発見に「新生の息吹に満ちて」と胸膨らませ、
日々新た。若い人も年寄りも スクラム組んで 笑顔で毎日を笑顔で Good Day!!
また、自分の健康に感謝しつつも、病気や高齢と闘っている仲間のことが気にかかる。
ただ思いをはせることしかできませんが、この春を元気で!! 笑顔での復帰を願ってエールを送る。
日々老いを感じる中で、健康で元気に動ける我が身に感謝しつつ、

神 ともにいまして 得られるものを変える「勇気」と
変えられないものを 受け容れる「心の静けさ」
両者を見分ける 「叡智」を God be With you!
と唱える - ニーバーの祈りより - .

高齢者には厳しい時代 ですが、家族・仲間がいる 仲間の笑顔を活力に!!

お互い 無理せず 笑顔で 今日も一日 Good Day!

まだ好奇心もある 我が身の健康に感謝しつつ、また 一年 互いスクラム組んで
前むいて 老いを笑顔で

なかなかむづかしいが お互いGod be with You!! と我が道を行く

新生の息吹を 胸一杯膨らませて この春を笑顔で !!

2019.4.5. 平成最後の春

Mutsu Nakanishi



「平成の30年間、日本は敗北の時代だった 敗北日本、生き残れるか」

◆ インタビュー記事のトップに記載された 小林喜光氏のプロフィール

1946 年生まれ 相関理化学専攻 イスラエル留学などを経て

74 年に、三菱化成工業(現三菱化学)に。2015 年から経済同友会代表幹事

1946年、新進の企業人83人がつくった経済同友会。経済再建を誓った設立趣意書には、「全く新たな天地を開拓しなければならぬ」「同志 相引いて互に鞭うち脳漿をしばって」と熱い言葉が並び。

以来70年余。同友会を率いる小林喜光さんの頭を離れないのは「日本が2度目の敗北に直面している」との危機感だという。技術は米中が席巻。激変に立ち遅れ 挫折の自覚ない。

◆ 小林喜光氏 インタビュー 記事 新聞掲載要旨 水色はインタビューの質問 ◆

2019.1.30. 朝日新聞掲載 小林喜光氏インタビュー 聞き手 編集委員・駒野剛 より

● 平成の30年間、日本は敗北の時代だった 事実を正確に受け止めなければ 再起はできません。

今では、グーグル、アップル、フェイスブック、アマゾンという『GAFA』と、アリババ、テンセントなど米中のネット系が上位を占め、モノづくりの企業はほとんどない。日本はトヨタ自動車が四十数位で、そこまで差がついた。

企業の盛衰が反映する国のGDP（国内総生産）でも伸び悩む日本に対し、米中は倍々ゲームで増やしていった。テクノロジーはさらに悲惨です。

かつて『ジャパン・アズ・ナンバーワン』などといい気になっていたうちに、半導体、太陽電池、光ディスク、リチウムイオンバッテリーなど、最初は日本が手がけて高いシェアをとったものもいつの間にか中国や台湾、韓国などに席巻されている。もはや日本を引っ張る技術がない状態です

● 事実を事実として受け止めないから

「GAFAみたいな世界もすぐ追いつける」とのんきな気分で見られるんでしょう。

そもそも失われた20年とか、デフレマインドの克服とかいうこと自体が本末転倒です。

安倍晋三政権、アベノミクスが唱えられ 「財政出動、金融の異次元緩和を進めるから、それで成長せえ」といわれました。しかし本来は時間を稼ぐため、あるいは円高を克服するために取られた手段で、それ自体が成長の戦略だったわけではないのです。この6年間の時間稼ぎのうちに、なにか独創的な技術や産業を生み出すことが目的だったのに顕著な結果が出ていない。ここに本質的な問題があります。

内閣府の2018年6月の調査でも74・7%の国民が今に満足していると答えています。

18～29歳では83・2%ですよ。

心地よい、ゆでガエル状態なんでしょう。日本全体は挫折状態にあるのに、挫折と感しない。

この辺でいいやと思っているうちに 世界は激変して 米中などの後塵を拝しているのに、自覚もできない。カエルはいずれ煮え上がるでしょう

● 国家の未来図が描かれないままの政治が与野党含めて続いてしまったためです。

今さえよければ、自分さえよければ、という本音の中で、国民も政治家も生きてきた。

周りが敵ばかりのイスラエルや、覇権を維持するためには科学を前に進めなくてはならない米国などと違い、皆で楽しく生きていきましょうという空気が取り巻いて敗北を自覚しない。

運動会で「みんな一緒にテープを切りましょう」と競争自体を忌み嫌った時期もあった国だから無理もない」

● 敗北が見える、自覚できる事態になると・・・

地政学では三つの選択肢がある。今は米国依存ですが、さらに従属を深めた米国の別種の州として生きていく。これを断ち切れれば、うっかりすると中国の一つの市、北京や上海になる形もあり得るでしょう。

どちらも嫌だ。日本は日本だと独立を守り、米中の中で中立を保つことも可能性としてはある

経済、技術を通じた地経学的な見地が死活的に重要です。現在は歴史的な革命期にあると皆が認識すべきです。

5GもAIもサイバーセキュリティも日本は本当に遅れてしまい、基幹的な技術を欧米や中国から手に入れないと産業、社会が立ちゆかなくなる。外国政府や企業の意向を無視しては国家全体が成り立たなくなる。リーディングインダストリー（成長を引っ張る産業）を自国の技術で育てることができず、他国の2次下請け、3次下請けとして食いつなぐ国になってしまう

● **抜け出すのも至難 息継ぎのために国債が乱発された結果、財政に余力はなく、持続可能性が疑問の現状**

GDPを増やそうとして逆に国内の総負債を増やしたんです。

6年間で約60兆円のGDPが増えたといいますが、国と地方の借金は175兆円も拡大しました。

これで次の世代に引き継いでいけるでしょうか。

一方で5Gや半導体、量子コンピューターなど次世代が利用する技術の研究開発費は欧米や中国に出遅れている。

● **アベノミクスに小林さんを含め、財界も手をさしのべた。結果的に時間稼ぎに加担した責任は軽くない ……。**

非常に問われている。矜持（きょうじ）を持つ財界人が少なくなりました

経営者として、あるいは社会的公器のリーダーとして、社会に対して強く関わって変革していこうという意志を持った人の絶対数が減ったんです。

● **かつて土光敏夫さんが臨時行政調査会を率いて行政改革を進めた頃、財界には高い権威がありました。**

でも ネット社会のいまは、財界トップと言っても、持っている情報が一般の社員と比べて特段に優れているわけでもないから、社会的地位も特段に高いわけでもない。そうした状況で、官邸1強体制の中、経済財政諮問会議や未来投資会議など政府の意思決定過程に組み込まれてしまえば、できることもたかがしれている

● **変えていくためには……………**

まずは財界トップに権威のない時代だと自覚する。だからこそ財界人だけで群れて固まらず、

学界や知識人、若い人たちも含めた幅広い団体、いわば知的NPOを作って意見を交わし、社会に問いかけ、政治に注文する。そういう柔軟な形でないと世の中は動かなくなっている。

まず知的NPOとして活動する場として、今度の大阪万博などは、よい機会になると思います。

お金集めなどは二の次です。世界に向けて何を考え、何を訴えるのか、それが本質です

● **日本の衰退が心配な半面、世界は一国主義や分断が広がっています**

一国主義を主張する政治家は選ばれた存在に過ぎず、選んでいるのは国民です。悪いのは国民です。

各国で国民が劣化したんです。偽りと真実を見極めることが民主主義の原点なのに、それができずに独裁者を生む。プーチン氏や習近平氏であり、西側でもそういう連中ばかりになってきた。

劣化は老いから始まったと思います。老いて勉強しない。考えない。新しいものに果敢に挑み、切り開くエネルギーも 枯渇してきました

● **先進国は老いたのですか……………**

文明は老いるものです。ローマしかり、大英帝国しかり。新しい血と混ぜることを嫌えば衰退に向かう。

それが世界史です。トランプ氏が壁造りに躍起になっていますが、外国からいろんな人がやってきて 活性化してきたというエネルギーを馬鹿にしてはいけません。日本は「弱きを助け、強きをくじく」といった大和心は残しつつ、進取の気性を培わないと、挫折したまま滅んでしまう。単なる労働力として外国人を入れるのではなく、勉強する、考える日本人を増やす触媒の役割を担ってもらうべきです。

● **社会にはストレスが生まれませんか……………**

だからいいんです。無用な対立はいけませんが、異文化と接することで日本本来の文化も磨かれる。

陳腐化したものは淘汰（とうた）される。そうした新陳代謝を怠ったのが、残念ながら平成時代の一つの性格です。異文化とワイワイガヤガヤやって実力がつくのです

2019.1.30. 朝日新聞掲載 小林喜光氏インタビュー 聞き手 編集委員・駒野剛 より

できるだけ記事に忠実に転記整理させていただきました

2019.2.5. by Mutsu Nakanishi from Kobe

◆ 2019.1.30. 朝日新聞掲載 小林喜光氏インタビュー記事紙面 file

<https://www.infokkna.com/ironroad/2019htm/2019mutsu/小林喜光氏記事.jpg>

【From Kobe 7月 初夏】遅れた梅雨のはじまりから酷暑の夏へ

2019 Kobe

Fkobe1907.pdf

遅れた梅雨の中で迎えた7月 お元気ですか!!

経験したことのない初夏 目まぐるしく変わる気象変化に負けぬよう

◎ 高度成長を支えた鉄鋼住金の名が消えた 「平成」の総括から「令和」の新時代へ
転記添付 経済同友会代表幹事 小林喜光氏 <インタビュー>記事
「平成の30年間、日本は敗北の時代だった 敗北日本、生き残れるか」

遅れた梅雨のはじまりから酷暑の夏へ
2ヶ月ぶりの更新 お元気ですか!!

体調変化に気を付けて この厳しい夏を乗り切りましょう



梅雨の雨上がり 南の高取山から須磨アルプス 2019.7.2. 若草の街より



心配された6月の猛暑・水不足も何とか乗り切って、西神戸伊川谷では田に水が入り、田植えの終わりの指標「半夏生」へ

春が猛スピードで駆け抜けて行く中で 年号が変わり、新しい時代に。

昭和の高度成長から成熟停滞の平成の時代を多くの仲間と共に一番の活動期を歩んだ我々にとっては、後期高齢で迎える「令和」の新しい時代 想いも人それぞれ ひとしお。

折りしも重厚長大・高度成長を支えた鉄鋼住金の名が消えた。

「一人負けの日本」の声を背負いながら、我々の時代は終わったとの一抹の寂しさを覚えながらも、年寄りの経験や流儀が先端で踊る時代でないと。

おだやかで 優しい平和な社会を願いつつ、若者たちへの期待一杯。

この5月体調不良に陥ったこともあって、散々。令和の新時代がスタートしたのに、home pageの更新もできず、いろんなことへの関心も薄らいでいましたが、体調回復と共にやっといつものスタイル勝手気ままな風来坊にやっと戻れました。

新しい時代の始まりに、この間 home pageの整理や自らを振り返るいい機会にもなりました。

また、日に日に老齢を感じる歳になり、今でないとのも思いも強い。

あれもしたい これもしたいとの思いが頭を駆け巡り、まあ 非生産的ではありますが、愚痴は言うまい。 家族や仲間にエネルギーをもらいつつ、新時代を共に駆けると毎日を奮い立たせています。

健康で元気に動ける我が身に感謝しつつ、お互い God be with You!!

7月 遅い梅雨の中 久しぶりの神戸の便りを届けます。

2019.7.5. from Kobe Mutsu Nakanishi

◎ 今年一番の庭先の紫陽花 こんな真っ赤なアジサイもあるとビックリしました



梅雨の雨上がり 庭先で



梅雨の雨上がり 庭先で



梅雨の雨上がり 庭先で

梅雨の真っ盛りの中で迎えた本年の7月
雨上がり、葉に雨粒を乗せたアジサイにほっと一息



大瀬崎から橋スピードで海水浴へ帰って来てはまたスピードで
瀬崎へ向かう船がひっきりなし。
すこい船の連続が早瀬・瀬崎の街を行く
【今 大瀬崎はシラス船の群衆と歌えてもらった。
波や瀬水ではしらす丼がおいしい名物に
船に載るまででしらす丼に挑戦したいな〜



瀬崎の街 2019.6.24
梅雨の真っ盛りの中で迎えた本年の7月
雨上がり、葉に雨粒を乗せたアジサイにほっと一息



瀬崎の街 2019.6.24
梅雨の真っ盛りの中で迎えた本年の7月
雨上がり、葉に雨粒を乗せたアジサイにほっと一息

梅雨の合間の晴れ上がった空に入道雲
快晴の空にも元気をもらおう

今年の春 調子を崩して 神戸にずっといたこともあって、何とはなしに駆けてゆく神戸の春をじっくりと。毎年眺める神戸の春ですが、新時代の始まりに、また 地球温暖化の影響が我々の身にも見えてきた。異常気象が常態化し、地球そのものも活動期 いろんな災害が多発しています。神戸では幸いなことに穏やかな春でしたが、駆け抜けるスピード また 若者たちとの差がますます開いていると感じる違和感等々。スピードよりもじっくり一度立ち止まり、刹那の対応話はやめろと言いたいのですが、そんなもの取り残せとさらにスピードを上げてゆく。まあええか でも新時代 更新できなかったhome page にも なにかこの新時代到来の断片を残しておきたいと。4月から6月デジカメで撮りためたスナップをスライド動画にまとめて記録し、home pageに残しました。たわいもない私の興味赴くままですが、猛烈にスピードを開けて移り行く神戸の春 私にとっての新しい時代の始まり。ご興味あれば、また 暇なときにご覧ください。

◎ 4月後半から5月 2019年春 平成から令和へ From Kobe の記録
野も山も街もひとも新生の息吹 新緑の神戸の街を元気に駆ける!!

<https://www.infokkna.com/ironroad/2019htm/walk16/1906maykobewalk00.htm>

■ 和鉄の道・Iron Road もなにか新しい展開かないだろうか・・・とインターネットを探す。

卑弥呼の邪馬台国・初期大和の国造りに大きな影響を与えたと考えられる大鍛冶工房など

大生産工房を有する弥生中期末・後期の大交易拠点集落 加茂宮ノ前遺跡

鉄の起源・製鉄技術のユーラシア大陸東遷の道も 愛媛大村上恭通教授らの国際グループによる調査でほぼ解明されつつあり、今私の一番の興味は海を渡り日本へもたらされた原型の状況と国造りとの関係。

私の今一番の興味は

1. 淡路島の津名丘陵に現れた五斗長垣内遺跡や舟木遺跡を中心とした弥生中・後期の生産工房群が次の卑弥呼の時代 初期大和王権の国造りに与えた影響 淡路島の役割がどうも見えてこない。
2. 大陸を東遷してきたたたら製鉄の源流となった製鉄技術 日本を渡った時に砂鉄使用の技術と一緒に海を渡ったのか… それとも 砂鉄原料の使用は日本で始まったのか…
日本のたたら製鉄の箱型炉は砂鉄使用によって育まれたと考えられ、製鉄原料としての砂鉄がカギを握ると。塊錬鉄法が日本にもたらされ、さらに砂鉄の使用によって 横長のいくつもの鞆羽口を持つ箱型炉による低温焼成の製鉄法 たたら製鉄の技術が確立されたと考えられるのですが、どうだろうか…

インターネットに何か新しい情報・知見をチェックしていて、

「日本最古最大の鍛冶工房村と考えられてきた淡路島の五斗長遺跡よりも古い大鍛冶工房遺跡が隣の阿波・徳島で昨年出土。しかも 遺跡は水銀朱の原料辰砂を産する若杉山のすぐ傍。そして同時に当時の半島交易の日本側の中心交易品である水銀朱や勾玉など装飾品の生産工房も有する交易の拠点集落 加茂宮ノ前遺跡」
今も発掘調査中で 次々とあたらしいはっろんがつついていると。

淡路島津名丘陵の林間生産工房群の拠点集落 舟木遺跡と同じ性格でしかも規模が大きいのにびっくり。

また 大和への通商路が早くからあり、半島交易と関係づけられることにびっくり。

阿波・淡路島・摂津播磨を結ぶ南北に半島交易の広いネットワークが想起され、各地の海人たちの活躍も頭に浮かぶ。 淡路島だけではないんだと。

まだ なにもよくわかりませんが、インターネットを検索して 今インターネットから得た情報を整理しました。
なにか突破口がひらけそうで うれしい阿南市 加茂宮ノ前遺跡の出土で、以前から気になって、調べていた阿波や讃岐の集落遺跡の記事等も引っ張り出して、今後の展開に興味津々です。

◎【鉄のはなしあれこれ】【インターネット検索情報】

卑弥呼の邪馬台国・初期大和の国造りに大きな影響を与えたと考えられる大鍛冶工房など

大生産工房を有する弥生中期末・後期の大交易拠点集落 加茂宮ノ前遺跡が昨年徳島で出土した

<https://www.infokkna.com/ironroad/2019htm/iron15/1906kamomiyanomae.pdf>

ごちゃまぜの7月更新のhome page になりましたが、新しい時代の新展開に期待一杯です。

老化・病気・介護などの困難に みんながむきあう 後期高齢で迎えた令和の新時代

自分の健康に感謝しつつも、病気や老齢と闘っている仲間のこと が いつも頭の中にあります。

ただ 思いをはせることしかできませんが、笑顔での復帰を願って エールを送っています。

仲間の笑顔を活力に!! スクラム組んで 今を元気に!!

2019.7.5. 令和の時代の最初のFrom Kobe Mutsu Nakanishi



2019.4.9. - 4.11. 朝日新聞朝刊 経済面「発信 日本製鉄上・中・下」

進 日本製鉄 上

「新日鉄住金が乗組」して半年。さらに
名を変え、トップも代えて國聯競争に挑
戦。業界の覇王の地位を一回で奪取する

「山田君、おかしな話だ。我々が海へ出るに、船を
つて国王の手がける「白国難化」に陥
する事になった。エッザールの海賊を助
に押されるかなどは、「ニッポン」に
置て新興市場に行つて出るも門企業
浮比つて状況に云る。」

（明義同） 上巻第四回

ある。同年のライバルと組んでエミールの買収に奮出したのは、初代偉人人口を抱えるイダが「成長投資家」で最も有望な市場（通称、だかだか、鉄石の鉱山）を持つサザールの買収は「現に」かなり製鉄所を必要とする。千載一遇のチャンス（機転）だった。

一方、イシド日本からの鉄鋼製品に「輸入制限（セーフガード）」を適用する

直近は海況指値の劇化を通じて、世界金アルセルロ・ミツタル・ルツセ・ルツと組んだ経営陣連中のイデオロギアをエッサル・スチールを売却する計画を進めた。当初は昨年に売却できたとされたが、エッサル・ルツの債務問題から、売却価格が低い」と言われた。ルツは争うたが、入札は断絶し、それが結果として、昨年10月、ルツが決定した形式で、売却が完了した。ルツは、日本製鉄の返しの買主を連年取り、日本製鉄が買収交渉を中止した。

「ニッポン」冠し新興国市場へ



入社式であいさつする日本製紙新社長の橋本英二（右）氏。東京都千代田区

進 日本製鉄 [中]

の和歌に「美奈原の川に」(名が変わるとは寂しい。地元の人はずっと、御鉄所を「住金さん」と呼び続けると思います」と語った。

■歌仙結(穂積真司)

上の声もあるが、元佐治新聞は「佐治君を早くセロにしたかった人だろう。日本製紙への社名変更は賛成できない」と憤る。旧佐治の看板商品「シュームスバップ」(紙製目なし紙幣)を製造する和歌山製紙所(和歌山市)周辺の古い資料館には「佐治の紙幣」という表記がいまも残る。70代

時の計画では、3年後をめどに年1,000億円規模の統合効果をめざした。統合効果は累計で2千億円以上のはず。

両社関係者を深めたのは、地元の日本自動車工業に加入したカールロス・ゴッパが1999年に経営陣退任の見通しを打ち出した「ゴッパ・シニッツ」がきっかけだった。

日本の納入から締め出されて他地に落ちたトヨタ新日鉄自動車を手を離し、トヨタに賣

の40代半ばの、その声もあるが、日本製鉄社長
の橋本嘉三郎は、新日鉄に、住金の統合は
入の順和も含めて終わったと語す。

「対外的精神」を掲げて合併した新日鉄
住金の新日鉄の取締役は、新日鉄が10
人、住金出身が5人だった。今は社外取締
役を除く15人中、住金出身は1人分だけだ。

合併の通知は計3基、効力北のたぬ田
新日鉄の住金製鉄所「千葉興業市」の1
基を2005年に閉鎖し、北のたぬ田の住
金の小笠原製所「現在では八幡製鉄所小笠
原」の3基も2005年をめどに閉鎖。合併

消えた「住金」「対等」どこへ

新日鐵住金株式会社
NIPPON STEEL & SUMITOMO METAL

A black and white photograph of two men in business suits shaking hands. The man on the left is smiling and has dark hair. The man on the right is also smiling and wears glasses. They are standing in front of a plain, light-colored wall.

新日鉄社会が発足した日にプレート除幕式を終えて御手ずかる会長の栗岡正二（右）と社長の友野定（河内）は、いづれも当時。前日まで常務は新日鉄社長、友野は住金社長だった。＝2012年10月1日、東京都千代田区

発進 日本製鉄 下

金が命じられ、火曜もくさる。令和への
復元の年に輸出した日本製鉄の鉄の手は波
蕩した。機本のかじ取りが問われている。

（敬称略）（明後日刊）

中國夢の提議革新はめざましく、「技術力
の差は詰まってきた」といふと根本は詰す。
設備の劣化が進み、生産設備のトナリ
も相次ぐ。国産型下期の粗鋼生産量は順
定より約40万トン減となり、安定生
産を要する「つぎの力」の強化も急務だ。
諸國人の正使用上の設備整備を新日鐵住

種が勃動した鉄鋼関税の交渉になった。輸出量も減らなかった。貿易の高さは折り紙付きだ。「樹脂と鉄を貼るのかわせ、複合素材をこの研究も始めています」(幹部)。

1月中旬、東京・有明で開催された自動車関連技術の展覧会「オートモティブ・ワールド」の会場で新日鉄社長(現日本製鉄社長)の進藤孝生(図)の姿があった。

が極めて新麗国では、鐵に頼らずに国内で生産する「自國産化」をめざす動きが活発だ。横みの新麗國市を訪問するには現地車に協力する要務が求められる。鉄鋼業は「大倉の構造変化」の対称が求められている」と横本 社長は続けた。今年1月1日、
「くくる力を鍛え、メガトレンドをとらえ、鉄を確める」という方針を掲げた。
世界約70カ国でのべ約4万社の特許を持つ日本鉄は、鉄のデパート」と称される。深海の圧下に耐えられる食糧製の油

中国勢に危機感 試練の船出

初出展の「オートモティブ ワールド」で、軽量化した自転車車体を展示した。新日鉄住金社長（当時）の渡藤孝生（左）が見学を訪れた＝1月10日、東京都江東区

昭和の高度成長から成熟停滞の平成の時代を多くの仲間と共に一番の活動期を歩んだ団塊の世代。後期高齢で迎える「令和」の新しい時代に 想いも人それぞれ。折りしも日本の高度成長を支えた重厚長大 鉄鋼 住金 の名が消えた。

日本経済同友会小林氏の指摘する「平成の30年間 一人負けの日本」の声を背負いながら、我々の時代は終わったのだと一抹の寂しさを覚える。

現役世代であり続けたいとの願いを封印して若者に任し、小林氏が指摘する総括に耳を傾け、各分野で新しい道を若者に託すことが日本復活の道ではないかと。

2019.4.10. Mutsu Nakanishi

経済同友会代表幹事 小林喜光氏 <インタビュー>記事 転記ご紹介

「平成の30年間、日本は敗北の時代だった 敗北日本、生き残れるか」



1月30日朝日新聞朝刊に掲載された財界の重鎮小林喜光氏のインタビュー記事にびっくり。くぎ付けになった。

小林喜光氏の熱い思いの発言に釘付けになった。

日本の現状に日本を牽引する財界トップリーダーの一人々とは思えぬ厳しい発言と指摘が並ぶ。

すべてがすべて、今後の道に必要とは思いませんが、日本の現状や指摘・そして方向性には承服。ビックリする明快さ。

日本の社会の現状がおかしいと思いつつも、なかなか口にできなかったことが、ストレートに記事にされている。

それも、現状肯定一辺倒と思っていた財界人の口から……。

私だけではないんだ。思いは同じで、もやもやしていた思いがすっきり整理できて、気持ちがいい。

また、ちょっと視点がいつも重厚長大・製造業重視に偏る私の頭もガツンと....。

出口すら見えぬ課題山積の日本。そして老害が蔓延する日本を端的に指摘するコメント。

さあ 日本はどう動いてゆくのだろうか…

ご承知の方も多いと思いますが、参考になればとできるだけ、記事を忠実に整理転載しました。

いつも勝手なことをぶつぶつ言う私にとっても反省と良い刺激となりました。

「いうはやすし。頭は回らぬが」 好奇心・突き進む力もまだある。大勢に飲み込まれぬよう がんばらねば……と。

「平成の30年間、日本は敗北の時代だった 敗北日本、生き残れるか」

◆ インタビュー記事のトップに記載された 小林喜光氏のプロフィール

1946年生まれ 相関理化学専攻 イスラエル留学などを経て

74年に、三菱化成工業(現三菱化学)に。2015年から経済同友会代表幹事

1946年、新進の企業人83人がつくった経済同友会。経済再建を誓った設立趣意書には、「全く新たな天地を開拓しなければならない」「同志 相引いて互に鞭うち脳漿をしばって」と熱い言葉が並ぶ。

以来70年余。同友会を率いる小林喜光さんの頭を離れないのは「日本が2度目の敗北に直面している」との危機感だという。技術は米中が席巻。激変に立ち遅れ 挫折の自覚ない。

◆ 小林喜光氏 インタビュー 記事 新聞掲載要旨 水色はインタビュアーの質問 ◆

2019.1.30. 朝日新聞掲載 小林喜光氏インタビュー 聞き手 編集委員・駒野剛 より

● 平成の30年間、日本は敗北の時代だった 事実を正確に受け止めなければ 再起はできません。

今では、グーグル、アップル、フェイスブック、アマゾンという『GAFA』と、アリババ、テンセントなど米中のネット系が上位を占め、モノづくりの企業はほとんどない。日本はトヨタ自動車が四十数位で、そこまで差がついた。

企業の盛衰が反映する国のGDP(国内総生産)でも伸び悩む日本に対し、米中は倍々ゲームで増やしていった。テクノロジーはさらに悲惨です。

かつて『ジャパン・アズ・ナンバーワン』などといい気になっているうちに、半導体、太陽電池、光ディスク、リチウムイオンバッテリーなど、最初は日本が手がけて高いシェアをとったものもいつの間にか中国や台湾、韓国などに席巻されている。もはや日本を引っ張る技術がない状態です

● 事実を事実として受け止めないから

「GAFAみたいな世界もすぐ追いつける」とのんきな気分でいられるんでしょう。

そもそも失われた20年とか、デフレマインドの克服とかいうこと自体が本末転倒です。

安倍晋三政権、アベノミクスが唱えられ「財政出動、金融の異次元緩和を進めるから、それで成長せえ」といわれました。しかし本来は時間を稼ぐため、あるいは円高を克服するために取られた手段で、それ自体が成長の戦略だったわけではないのです。この6年間の時間稼ぎのうちに、なにか独創的な技術や産業を生み出すことが目的だったのに顕著な結果が出ていない。ここに本質的な問題があります。

内閣府の2018年6月の調査でも74・7%の国民が今に満足していると答えています。

18～29歳では83・2%ですよ。

心地よい、ゆでガエル状態なんでしょう。日本全体は挫折状態にあるのに、挫折と感しない。

この辺でいいやと思っているうちに 世界は激変して 米中などの後塵を拝しているのに、自覚もできない。カエルはいずれ煮え上がるでしょう

● 国家の未来図が描かれないままの政治が与野党含めて続いてしまったためです。

今さえよければ、自分さえよければ、という本音の中で、国民も政治家も生きてきた。

周りが敵ばかりのイスラエルや、覇権を維持するためには科学を前に進めなくてはならない米国などと違い、皆で楽しく生きていきましょうという空気を取り巻いて敗北を自覚しない。

運動会で「みんな一緒にテープを切りましょう」と競争自体を忌み嫌った時期もあった国だから無理もない」

● 敗北が見える、自覚できる事態になると・・・

地政学では三つの選択肢がある。今は米国依存ですが、さらに従属を深めた米国の別種の州として生きていく。これを断ち切れれば、うっかりすると中国の一つの市、北京や上海になる形もあり得るでしょう。

どちらも嫌だ。日本は日本だと独立を守り、米中の中で中立を保つことも可能性としてはある

経済、技術を通じた地経学的な見地が死活的に重要です。現在は歴史的な革命期にあると皆が認識すべきです。

5GもAIもサイバーセキュリティも日本は本当に遅れてしまい、基幹的な技術を欧米や中国から手に入れないと産業、社会が立ちゆかなくなる。外国政府や企業の意向を無視しては国家全体が成り立たなくなる。リーディングインダストリー（成長を引っ張る産業）を自国の技術で育てることができず、他国の2次下請け、3次下請けとして食いつなぐ国になってしまう

● **抜け出すのも至難 息継ぎのために国債が乱発された結果、財政に余力はなく、持続可能性が疑問の現状**

GDPを増やそうとして逆に国内の総負債を増やしたんです。

6年間で約60兆円のGDPが増えたといいますが、国と地方の借金は175兆円も拡大しました。

これで次の世代に引き継いでいけるでしょうか。

一方で5Gや半導体、量子コンピューターなど次世代が利用する技術の研究開発費は欧米や中国に出遅れている。

● **アベノミクスに小林さんを含め、財界も手をさしのべた。結果的に時間稼ぎに加担した責任は軽くない ……。**

非常に問われている。矜持（きょうじ）を持つ財界人が少なくなりました

経営者として、あるいは社会的公器のリーダーとして、社会に対して強く関わって変革していこうという意志を持った人の絶対数が減ったんです。

● **かつて土光敏夫さんが臨時行政調査会を率いて行政改革を進めた頃、財界には高い権威がありました。**

でも ネット社会のいまは、財界トップと言っても、持っている情報が一般の社員と比べて特段に優れているわけでもないから、社会的地位も特段に高いわけでもない。そうした状況で、官邸1強体制の中、経済財政諮問会議や未来投資会議など政府の意思決定過程に組み込まれてしまえば、できることもたかがしれている

● **変えていくためには……………**

まずは財界トップに権威のない時代だと自覚する。だからこそ財界人だけで群れて固まらず、

学界や知識人、若い人たちも含めた幅広い団体、いわば知的NPOを作って意見を交わし、社会に問いかけ、政治に注文する。そういう柔軟な形でないと世の中は動かなくなっている。

まず知的NPOとして活動する場として、今度の大阪万博などは、よい機会になると思います。

お金集めなどは二の次です。世界に向けて何を考え、何を訴えるのか、それが本質です

● **日本の衰退が心配な半面、世界は一国主義や分断が広がっています**

一国主義を主張する政治家は選ばれた存在に過ぎず、選んでいるのは国民です。悪いのは国民です。

各国で国民が劣化したんです。偽りと真実を見極めることが民主主義の原点なのに、それができずに独裁者を生む。プーチン氏や習近平氏であり、西側でもそういう連中ばかりになってきた。

劣化は老いから始まったと思います。老いて勉強しない。考えない。新しいものに果敢に挑み、切り開くエネルギーも 枯渇してきました

● **先進国は老いたのですか……………**

文明は老いるものです。ローマしかり、大英帝国しかり。新しい血と混ぜることを嫌えば衰退に向かう。

それが世界史です。トランプ氏が壁造りに躍起になっていますが、外国からいろんな人がやってきて 活性化してきたというエネルギーを馬鹿にしてはいけません。日本は「弱きを助け、強きをくじく」といった大和心は残しつつ、進取の気性を培わないと、挫折したまま滅んでしまう。単なる労働力として外国人を入れるのではなく、勉強する、考える日本人を増やす触媒の役割を担ってもらうべきです。

● **社会にはストレスが生まれませんか……………**

だからいいんです。無用な対立はいけませんが、異文化と接することで日本本来の文化も磨かれる。

陳腐化したものは淘汰（とうた）される。そうした新陳代謝を怠ったのが、残念ながら平成時代の一つの性格です。異文化とワイワイガヤガヤやって実力がつくのです

2019.1.30. 朝日新聞掲載 小林喜光氏インタビュー 聞き手 編集委員・駒野剛 より

できるだけ記事に忠実に転記整理させていただきました

2019.2.5. by Mutsu Nakanishi from Kobe

◆ 2019.1.30. 朝日新聞掲載 小林喜光氏インタビュー記事紙面 file

<http://www.infokkna.com/ironroad/2019htm/2019mutsu/小林喜光氏記事.jpg>



太陽に顔を向ける明るいひまわり 今年もうれしい出会いができました
 不順な天候が続いた梅雨もやっと開けて、真っ青な空に入道雲
 その暑さには閉口ですが、「ひまわりの夏」到来
 後期高齢になって迎える令和の新時代で迎える初めての「ひまわりの夏」
 ひまわりにも元気をもらいつつ、お互い無理せず 元気に

2019.8.1. from Kobe Mutsu Nakanishi



2019ひまわりの夏 ひまわりwalk 20019.7.17.



今年も小野のひまわりの丘 & 千種川が流れ下るたたら郷佐用のひまわり畑を訪ねて元気な暇割れに出会えました

- ◎ 小野市清谷 ひまわりの丘 ひまわり畑
- ◎ 千種川が流れ下る古代たたら郷 旧南光・旧三日月のひまわり畑
- ◆ 古代たたら跡 千種川河岸田段丘の丘 漆野段集落のひまわり畑
- ◆ 千種川河岸段丘 林崎のひまわり畑
- ◆ 旧三日月町 志文川河岸姫新線電車が行く宝蔵寺のひまわり畑

小野ひまわりの丘・佐用漆野のひまわり畑はうれしい満開
佐用林崎・宝蔵寺のひまわり畑は満開を過ぎていましたが、
毎年 夏のうれしいたたら郷とひまわりの出会い
元気をもらって帰ってきました From Kobe Mutsu Nakanishi



梅雨が明け、太陽と青空が戻ってくると毎年訪ねる播磨のひまわり畑

今年は梅雨明けが遅れていますが、「播磨のひまわり畑でひまわりが盛り」とのひまわり祭りのニュースに 梅雨の晴れ間 播磨のひまわり畑を訪ねました。

例年原チャリで行くのですが、 今年は雨の心配も……
友達のひまわり畑案内もしたいので家内も行くということで、
家内の運転で播磨の田園を抜けて西播磨の山郷佐用のひまわり畑へ。 今年は季節感が全くくるっているので、どのひまわり畑が盛りなのか？ 自信なし。

毎年夏の到来にあわせてでかける私の夏迎え、 青空が顔を

を出した梅雨の晴れ間 降りそそぐ太陽に一齐に顔を向ける播磨のひまわり、うれしい1日となりました

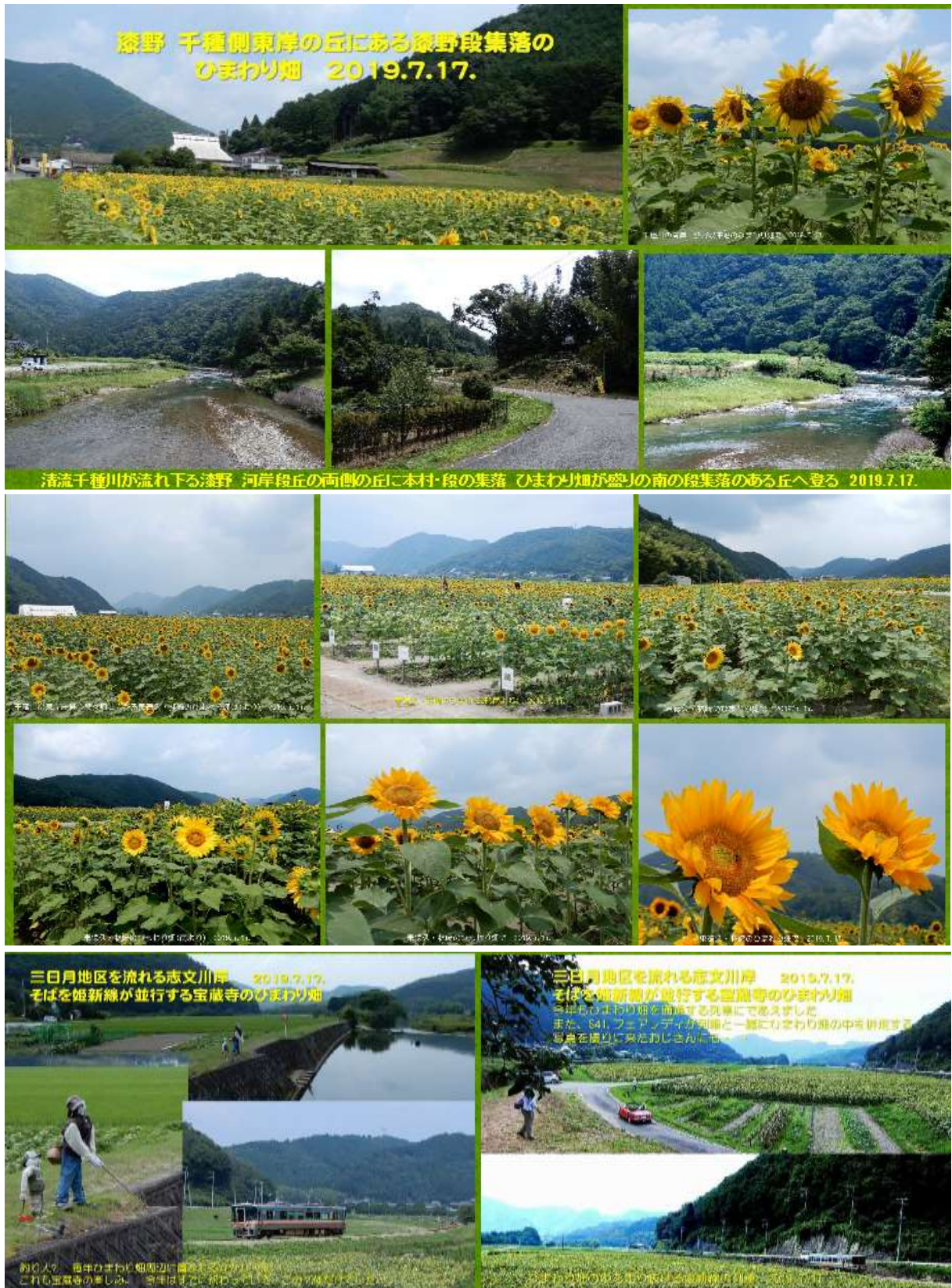
西播磨の田園地帯が広がる道 175 号沿い 【小野市清谷 ひまわりの丘 ひまわり畑



小野ひまわりの丘 2019. 7. 17.

西播磨古代たたらの郷の山里のひまわり畑

清流が流れ下る千種川の両岸に 佐用古代たたら跡や段々畑が広がる河岸段丘のひまわり畑



2019 ひまわりの夏 更新の便り

異常気象の中で 猛威を振っています 体調維持とともに災害にも感度をあげて ご留意ください

老化・病気・介護などの困難とみんながむきあう新時代

仲間の笑顔を活力に!! スクラム組んで 今を元気に!!

2019 ひまわりの夏 from Kobe Mutsu Nakanishi

◆ 8月掲載の記事 & ひまわりの夏 2019 雑感



緑の波が田園を渡る 北神戸 淡河・吉川の田園 心配した稲も大丈夫のようだ 2019.7.27.

◎ 2019 ひまわりの夏

東播磨 小野市ひまわりの丘 & 西播磨 古代たたらの郷のひまわり畑を訪ねる

◎ ひまわりの夏 8月 雑感 From Kobe



布引谷 布引の滝

五本末堰堤 隠れ滝

「ひまわりの夏」 異常気象が毎日我が身に迫る今年の夏。

おかげさまで 家族ともども元気に暮らしていますが、激動の時代に遭遇して、何かと気が晴れぬ今年の夏
あれもこれもお伝えしたいと思いつつも、夏バテ気力乏しく ホームページ更新ままならず、お許ください。
ひまわりの夏の便りだけは何とかなんとかお送りすることが出来ました。

ゆっくり おいおいページをき加えてゆきたいと思っています。

◎ 空には入道雲がモクモクと。 今年は雨が多かった精か六甲の滝も水しぶきを上げ、なんとも心地よい。
夏の朝を楽しませてくれている朝顔もさきだして すがすがしい朝に。

夏の高校野球県体が久しぶりに球場で母校の校歌を聞くことが出来て、うれしいひとときでした。



緑の風が田園を渡るのが見えますでしょうか…

2019.7.12. 加古川市志方の田園で

◎ 和鉄の道・Iron Road 淡弥生時代最古最大級の鍛冶工房村が淡路島につづき、徳島でも出土。
我々関西人は 実感の伴わぬ鉄の時代と思いながらも、期待を込めてすぐに「卑弥呼・大和の国造り!!」と
からめてしまうそんな「弥生時代の大鍛冶工房村」。その実像をどう見るべきか・・・一番今知りたい古代鉄の謎。
専門家 村上恭通先生が 6 月末に徳島で「弥生時代の鍛冶工房の実像」について、講演された概要が幾つかイ
ンターネットに掲載されているのを見ました。

弥生の鍛冶工房村について、発掘調査で明らかになった具体的な弥生の鍛冶工房の実像を整理レビュー。
特に同時代 北部九州と西日本における鉄器加工の鍛冶技術に大きな技術差があることを重要視して
直接 淡路や徳島で出土した弥生最古最大の鍛冶工房を「卑弥呼・大和の国造りにつながる朝鮮半島の先端鍛冶
技術とは一線を画すとされた。 行けなかった講演 しっかり記録掲載せねば・・・と。 これも次回に。

◎一方 世相はまったくわけのわからん時代に。 これで日本は世界と伍して行けるのだろうか・・・・・・
現政権が目のかたきにする朝日新聞が、語気鋭く指摘するが、世は動かず。

一方 若者たちは老仙人になったのか、「ひとは知らぬが自分には今が一番心地よい。変化は求めず」と。
「ぐちは言うまい。 でも もう流れから取り残された感がひしひしと。でも 我が道を行く」と。
そろそろ老い行く先のことが気にかかりだしていますが、みんなに助けてもらいながら、
相変わらずの風来坊 孫バカやっています。

どうか体調変化に気を配られ、この酷暑を乗り越えられますよう。

God Be With You!! お互い元気に前向いて。

2019 年ひまわりの夏

太陽に顔を向けて元気な姿を見せるひまわり なにかの助けになれば・・・・・・・・・・

2019.8.1. ひまわりの夏 from Kobe Mutsu Nakanishi



我が家のこの夏一番のビッグニュース伊丹の孫がソフトテニスで夏の伊丹・阪神そして県体まで勝ち進み、
ベスト8で 近畿大会の出場権を獲得。 ほんまかいなとビックリですがうれしいニュース。 孫バカやっています



夏の朝をすがすがしくし
てくれる朝顔も咲きだし
ています。

「嘲笑する政治」 朝日新聞 2019.7.7. この夏 一番 私に響いた響い言葉
なにかやっと自分が感じている政治にびったしの言葉に出会った感じがしています。

朝 日 新 聞 1 14 版

2019年(令和元年)7月7日(日)

問う

2019 参院選

①

「嘲笑する政治」続けるのか

政治部次長
松田 京平

笑いは人間関係の潤滑油だ。ただし、他人を見下す笑いとなれば話は違ふ。安倍首相は2月の自民党大会以降、民主党政権を「悪夢」と言って会場の笑いを誘うあいさつを十数回してきた。5月には、自民党の「暗」麻生、細田の主張各派のパーティーに顔を出し、「悪夢」発言を繰り返した。笑いや拍手は確かに起きた。それは、さげすみの笑いだった。

「政治の混乱と停滞に終止符を打つ」。2012年末、民主党に代わって政権に復帰したころ繰り返した首相の言葉だ。あれから8年半。今年6月、通常国会閉幕後の記者会見では「再びあの混沌の時代へと逆戻りするの」を参院選の「最大の争点」とした。

民主党政権の失敗と比較して野党を揶揄、こき下ろす。身内で固まってあき笑う。自分が相手より上位にあり、見下し、排除する意識がにじむ。首相も支える官邸スタッフも代わらず、国会では野党を圧倒する議席に支えられた強固な権力基盤の中で、「嘲笑する政治」が8年半、まかり通ってきたのではない。

笑われる野党にも責任がある。ただでさえ小口化したのに、いまだに主導権争いと離合集散を繰り返している。民主党政権の中枢にいた一部政治家に至っては、無節操に自民党の門をたたいている。

有権者の選択は、相対的な評価によるものだ。本気で闘う気のない政党や政治家は、受け皿になりようがない。世論調査で内閣を支持する理由の最多が「他よりよさそう」で固定化する理由が、ここにある。

長期政権下の国会は、官邸が成立させたい法案を通す場として下請け化した。野党が関与せず、首相答弁につじつまを合わせ、官邸が公文書改ざんに手を染めた。

安倍政権が進める政策に異を唱える人を攻撃する風潮も社会に広がった。ネットには、沖縄の米軍施設建設への抗議活動に対する差別発言があふれる。「イー・ジス・ア・ショー」の配備問題では、防衛省のずさんな調査の発覚で白紙撤回を求める秋田県知事に、辞職あるいは「受け入れろ」と迫るメールや電話が多数届いているという。人をさげすむ政治が生んだ差別や同調圧力の根は深い。

の主流各派のパーティーに顔を出し、「悪夢」発言を繰り返した。笑いや拍手は確かに起きた。それは、さげすみの笑いだった。

「政治の混乱と停滞に終止符を打つ」。2012年末、民主党に代わって政権に復帰したころ繰り返した首相の言葉だ。あれから8年半。今年6月、通常国会閉幕後の記者会見では「再びあの混沌の時代へと逆戻りするの」を参院選の「最大の争点」とした。

民主党政権の失敗と比較して野党を揶揄、こき下ろす。身内で固まってあき笑う。自分が相手より上位にあり、見下し、排除する意識がにじむ。首相も支える官邸スタッフも代わらず、国会では野党を圧倒する議席に支えられた強固な権力基盤の中で、「嘲笑する政治」が8年半、まかり通ってきたのではない。

笑われる野党にも責任がある。ただでさえ小口化したのに、いまだに主導権争いと離合集散を繰り返している。民主党政権の中枢にいた一部政治家に至っては、無節操に自民党の門をたたいている。

有権者の選択は、相対的な評価によるものだ。本気で闘う気のない政党や政治家は、受け皿になりようがない。世論調査で内閣を支持する理由の最多が「他よりよさそう」で固定化する理由が、ここにある。

長期政権下の国会は、官邸が成立させたい法案を通す場として下請け化した。野党が関与せず、首相答弁につじつまを合わせ、官邸が公文書改ざんに手を染めた。

安倍政権が進める政策に異を唱える人を攻撃する風潮も社会に広がった。ネットには、沖縄の米軍施設建設への抗議活動に対する差別発言があふれる。「イー・ジス・ア・ショー」の配備問題では、防衛省のずさんな調査の発覚で白紙撤回を求める秋田県知事に、辞職あるいは「受け入れろ」と迫るメールや電話が多数届いているという。人をさげすむ政治が生んだ差別や同調圧力の根は深い。

平和を願って 決意も新たに !!



安里有生/詩 長谷川義史/画

へいわってなにか。ほくは、かんがえたよ。ねこがわらう。おなかがいっぱい。やぎののんびりあるいてる。ちょうめいそうがたくんはえ、よなぐにうまが、ヒーンとなく。みんなのころから、へいわがうまれるんだね。これからも、ずっとへいわがつづくように、ほくも、ほくのできることからがんばるよ。

家族・仲間に思いを寄せつつ

平和の願いもまたひとしお

平和で穏やかな暮らしが ひろく行き渡るよう

日本人の心の故郷「縄文」を世界の人たちに知ってもらいたい

一万年も平和で豊かな生活が続いた時代

世界に類のない日本の「縄文」そのエンジンは「他人を思いやる心」

◆ 日本人の心の故郷 縄文

北東北・北海道の縄文遺跡を ユネスコ世界遺産に

◆ PDF Photo「原爆資料館 & オバマさんの折り鶴」

<http://www.infokkna.com/ironroad/2017htm/2017mutsu/fkobe1708photo.pdf>

◆ 原爆資料館 映像展示資料 原爆を投下された広島

<http://www.infokkna.com/ironroad/2017htm/2017mutsu/fkobe1708.mp4>

◆ 日本人の心の故郷 縄文 縄文の心を映すストーンサークル

<https://www.infokkna.com/ironroad/2015htm/iron11/jyomonslide.htm>

【From Kobe 10月 初秋】Happy Autumn 今を元気に



季節感が2週間ほど遅れているかのような気がしていますが、酷暑・台風・集中豪雨の夏が過ぎ、朝夕爽やかな秋の風、とんぼが上空を舞い、眺める須磨の海も遠くまで空澄み渡る秋景色里では一面黄金色の畦に彼岸花も咲き、実りの秋を告げ、うれしい新米も届く街ではワールドカップの勝利に沸く

でも、パラダイムシフトが猛スピードに進む国際情勢に 取り残されるな 日本!!

でも 愚痴は言うまい 若者に期待しつつ 隅っこでなんとか・・・

久しぶりに杯を重ねて 仲間と語り合うのも楽し

海・山・里戸外に飛び出すもよし またひとり想いに更けるもよし

いろいろあったこの夏ですが 秋迎え 気分も新た

Happy Autumn 今を元気に!!

◎ 収録 最近の朝日新聞 2019. 9.27.朝刊 天声人語・オピニオン&フォーラムより

「大きなパラダイムシフトが進行する国際情勢の中で、国民に何も説明せず、

みくだす横暴な仲間政治 これだよいのだろうか…

なぜ、日本では新しい雇用・ビジネスを生む事業・企業が生まれない。

理念も目標も失いいまだに高度成長期の流れにしがみつく日本」



大きなパラダイムシフトが進行する国際情勢の中で、
国民に何も説明せず、みくだす横暴な仲間政治 これではよいのだろうか...
なぜ、日本では新しい雇用・ビジネスを生む事業・企業が生まれない。
理念も目標も失いいまだに高度成長期の流れにしがみつく日本



2019年 9月27日(●)

米の牛・豚関税下げ 日本車は撤廃先送り

2004-3-25

バトリック・デニーンさん

1964年生まれ。東京大学文学部教授。近著に『西洋文学の失敗（日本主義はなぜ失敗したか）』（2016年）。

とて、明治の政治、社会、経済の
あらゆる方面に於いて、かゞとい
はれ、その影響が著しくある。こ
のことは、その著者の著述によ
り、明かである。

「論議」に於いて、明治の政治、
社会、経済のあらゆる方面に於
いて、かゞといはれ、その影響
が著しくある。このことは、そ
の著者の著述により、明かであ
る。

取轉左應元下

[illegible]

【From Kobe 11月 秋便り】 Happy Autumn 【2】 2019.11.5

11月 Happy Autumn 【2】 秋桜2019 深まり行く秋

◎ 収録 この秋に思うこと 色々 この秋 何度か耳にしたこと
From Kobe Mutsu Nakanishi



高齢になって いろんな課題が山積ですが、どうか無理せず、
お互い 声かけあって 身を守るとともに、
助けも得て 今を元気に前向いて Happy Autumn に
また、もう 想定外などと言っておられぬ地球環境変化
秋になっても 度重なる大型台風など
長野・関東ほか日本列島各地に大きな災害 お見舞い申し上げます
被災された皆様が一日も早く立ち直られますよう



ワールドカップラグビーに熱狂したのも もうおしまい。
ふと気づくと街路樹も 色づいて すっかり秋模様。
遅れていたコスモスも満開をすぎ、日に日に日没が早くなったと感じる 11月
世相は相変わらず迷走。いたるところで身勝手なおおよそ理解できぬ変なことが起き始め、
社会のほころびが誰の目にも見えだしてきた。
「自分の身は自分で守る」とはいうものの もう身に余る高齢者
せめて 感度と準備だけは怠りなく ぼんやりしてるわけにいかんなぁ・・・と。



2019 秋桜 東播磨秋の風物詩 加古川市志方の郷のコスモス畑 今年も出会えました



秋の夕暮れはつるべ落とし 落日 里の夕景 こんな夕暮れが撮れました



From Kobe この秋に思うこと 色々 この秋 何度か耳にしたこと

「効率化・選択と集中 行き過ぎた資本主義は 人々を幸福にしない

GAFA グローバルな巨大企業存在は 富を集中し、富の分配がなされない

多重・多様化をキーワードに《柔軟な社会造りへ舵を切る》

パラダイムシフトの波が世界のあちこちで、おこりはじめた」と。



ワールドカップ ラグビーに熱狂したのももうおしまい。 ふと気がつくと街路樹も色づいて すっかり秋模様。遅れていたコスモス畑の花も盛りを過ぎて、日に日に 日が短くなってきたと感じる 11 月 世相は相変わらず迷走。いたるところで 身勝手なおおよそ理解できぬ変なことが起き始めている。社会のほころびが誰の目にも見えだした。

「自分の身は自分で守る」とは言いますが、もう身に余る高齢者 せめて感度と準備だけは怠りなく。ぼんやりしてる訳にはいかなあ。

いつまで 想定外で済ましてしまうのか…… みんな安倍さんの真似をして ますますおかしくなる。「責任として 受け止めねばならぬ」と他人事のように言い捨て、「幕は引けた」と通り過ぎるのを待つ。「責任として受け止めたなら、対策と行動を見せてよ……」と思うのですが、

「受け止めることが責任行動」と変な辻褄のあわない音なしの構え。そろそろトランプさんも安倍さんもみんな そんな常套句の化けの皮がはがれてきた。もうみんなまたか…と。世界は今 大変革の時代を迎えている。「行き過ぎた効率化・選択と集中と大量過剰生産の今のマニュアル社会は 人々を幸福にはしない」と気づき始めた国々。貧困と増大する格差からの脱出へ、舵が切られ始めた。正解はまだ見えないが、各分野での具体的な「対策・行動」の試行が進んでいる。日本はどうか 都合の良いメディアを使った自分を抜きにした「評論・解説・How To マニュアル」等々の氾濫。「私にとっては今が一番 先のことは先。皆で渡れば怖くない 今までだって そうだった」と。でも 現に日常今までが通用しなくなっている現実のいかに多いことか 目をつぶるわけにはいかないのでは……。

この秋 何度か耳にした…… 激動変革の時代 世界は舵を切り始めた

「効率化・選択と集中 行き過ぎた資本主義は人々を幸福にしない

GAFA グローバルな巨大企業存在は富を集中し、富の分配がなされない」

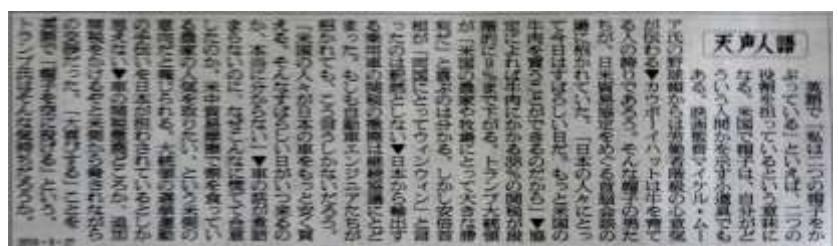
多重・多様化をキーワードに《柔軟な社会造りへ舵を切る》

パラダイムシフトの波が興りはじめた」と。

ここは 柔軟な若者たちに任せるのが、得策ではないか……。そんな目で眺めると、日本のおかしさも 色々見えてくる。

でも 愚痴は言うまい

若者に期待しつつ 隅っこでなんとか



また、この秋うれしいことも。

リチウムイオン電池で 旭化成 吉野彰氏がノーベル化学賞の受賞

リチウムイオン電池の旭化成 吉野彰氏のノーベル化学賞受賞 おめでとうございます。

日本では基礎・基本の発明や発見研究に評価が偏るが、今回の吉野彰氏は根っからの技術開発屋さんに見える。開発を知るエンジニアにとっては本当にうれしい受賞。

リチウムイオン電池が今日これだけ実用展開されたのは吉野氏の発見・発明があったからこそ。

世の中で発明された技術や製品が役立つには 最初の基本・基礎発明・発見と同格で、実用化技術が同時に開発されたからだ。

「外見・形ばかりでなく同じ品質・性能レベルでいつもみんな作り上げること」が必要。これが実用開発。実用化開発なくしては絵に描いた餅になってしまう。

これがまた苦難の連続。基本発明・発見と同じ同等の苦労・挫折があるが、それに目を向ける人は少ない。

技術屋同士がよく使う会話がある。

「研究はええよなぁ・・・ 一つ作ればOK 原理と特性を明らかにし、次へ新たな挑戦だから・・・

開発はそうはゆかん。製品となれば100が100 同じ品質・性能レベルでそれにコストも 」

「そんなこといっても 基本の発見・発明がなければ、実用化なんてないよ 」と。

でもなんぼ素晴らしい発明も実用開発が完成しなければ、世に出ることはない。

原理原則だけでは世に出せないのである。

今回この実用開発研究とそれによる実用実践が評価されての受賞 うれしい限りです。

今 日本ではいくつかの指標と照らし合わせ

「画期的な発明・発見がない。世界に誇れる技術が減少し、技術立国日本が一機に急落している」との認識が広がり、大きな課題となっている。

その原因として日本の大学研究費の分配制度の偏重が大きな問題とみる学者が多い。

文部省・政府の視点を欠く選択と集中がもたらした弊害に見える。

国土のインフラ整備 成熟社会での今後の展開社会等々今見える弊害の多くが同じ原因かも。

政治の在り方 社会の仕組みが 今も旧態依然高度成長期をいまだに引きずり、

高度成長の成功体験をベースに判断がなされているという人が多い。

「従来の延長線から脱したパラダイムシフトが急務になっている。

でも それを担えるのは老化した頭ではなく、間違いなく若者たちである。」

そんな主従逆転の枠組みが今必要となっている。

毎日の中でそんなひずみがいたるところでみんなに見えだしたこの秋。

日本は今 どこへ行くのか・・・・・・ 日本だけがひとり 迷走が続いているように見える。

日本がんばれ!! 若者頑張れ!!

老化・病気・介護などの困難とみんながむきあう新時代
仲間の笑顔を活力に!! スクラム組んで 今を元気に!!

異常気象進行の中 自然や交通など災害が猛威を振るっています
体調維持とともに災害予知にも感度をあげた行動をご留意ください

【From Kobe 12月 師走の便り】

2019.12.15.

師走の便り いろんなことのあった一年 思いも新たに

まだまだ好奇心もあり、足も動く。家族仲間もいる。勝手気ままな風来坊 神戸の片隅で

◎ 収録 師走の今 本年を振り返って 心に響いた言葉

From Kobe Mutsu Nakanishi



◆ 2019年 12月 2019師走 from Kobe

神戸では ルミナリエ・まばゆい希望の灯も ともり、
今年一年 いろんな思いが駆け巡る師走

Merry Christmas!! クリスマス おめでとう

クリスマスが 沢山の笑い声と暖かい友情 そして、
愛を運んで来てくれますように。
そして、それがずっと続きますように

多くの人にささえられながらも
また、1年 元気に過ごすことが出来ました
本当に感謝です

私も、家族など周囲に感謝している人々や仲間
諸君と共に笑顔を分かち合おう

いつも、思いを分かち合います。
「忘れない 忘れたい 後悔がないことを」

まだまだ好奇心もある 我が身の健康に感謝しつつ、
また 一年 お互いスクラム組んで 老いを笑顔で
よろしくお願ひします

2019.12月 from Kobe
by Mutsu Nakanishi



ルミナリエの灯に 想いも新た

平和な生活 とともに生きるありがたさをかみしめ 心も新らた

また 一年 前むいて お互いスクラム組んで 老いを笑顔で

God be with You!! 師走 Mutsu Nakanishi



街も野山も紅葉が彩る真っ青な秋の空
心地よい風をいっぱい吸い込んでいつもの景色も違って見える
心身共に生き返れと



野路菊咲いて 先に逝った仲間を偲んでの秋送り 元気で動けることを感謝しつつ 今を元気に

地球温暖化が抜き差しならぬ時代 その自然の災害の猛威が直接我が身にも
そんな激動の中で 身勝手な政治に振り回され続ける定見なき日本 日本はどこへ行くのか・・・
COP25 あのスウェーデンの 16 歳の若者が世界を相手にあれだけ地球危機を訴えている。
それも世界の首脳たちを前に堂々と。そんな問いかけにどうこたえればよいのか・・・
また、日本の縄文をもっと知ってほしいと言い続けてきましたが、やっとまたユネスコ世界遺産登録の土俵に。
最近 縄文についての記事や解説が新しい視点で語られるようになったのもうれしい。

いろんなことがあった一年 あれもこれもとあたたまを駆け巡る・・・・・・・・・・

令和元年が暮れてゆく 早く若ものの時代へ舵を切れ!!との思いです

本年一年 和鉄の道にお付き合いありがとうございました。 また 来年もむよろしく

最近 老化や体調不調などの療養・リハビリに頑張っている仲間の近況を聞きました。
また、"元気やぞ!!"と笑顔を送ってくれた仲間もいる。
うれしい連絡 仲間にも
歳しい日々と察しつつ、一日も早い回復を祈っています。
仲間がいる!! 仲間の笑顔はみんなの応援歌!!

老化・病気・介護などの困難に みんながむきあう 新時代
仲間の笑顔を活気に!! スクラム組んで 元気に今を!!

心もあらた 新しい時代を前向いて
後期高齢になって 老化そして終活がよぎる歳に
でも 好奇心さえあれば...と 奮い立たせて 毎日勝手気ままな風来坊です

本年もあとわずか、お互い無理せず元気に!!
忘れない 忘れまい みんな仲間がいる
我が道をしっかりと God be with You!!

2019.12月の夜更け home page のBGMに耳を傾けながら
From Kobe Mutsu Nakanishi

2019.12.15. From Kobe Mutsu Nakanishi

【From Kobe 12月 師走】師走の今 本年を振り返って 心に響いた言葉

2019.12. 8. Mutsu Nakanishi

師走になって、ことし一年を振り返って その時折々 書き綴った季節の便りの中でお送りした言葉。ほんとうに毎回 同じ言葉ばかりでした。

インターネットやニュースでは、今が一番と社会への満足や謳歌する言葉・番組があらわれるが、何とはなしに息苦しく閉塞・不安が漂う社会。なにか自分には合わない。ついていけないなあ・・・と。後期高齢になって非生産的な日々を送る今 取り残されているとの不安感が頭をよぎる。
「でも ほんまにええのか・・・ 現実はどうだろう・・・」

そんな師走の中で発表された OECD が3年ごとに行う世界各国の15歳を対象とした学力総合調査。(読解力・数学的リテラシー・科学的リテラシーの3分野)で、高い学力を維持しているものの、日本の読解力が大幅に低下したと伝えている。日本の現在の社会に与える強烈なアッパーカットである。教育の問題 子供の問題と過少評価する向きもあろうが、この問題今の日本の現実 社会の問題。日本が一人 国際社会から取り残されてゆく深刻な姿が映されている。
でも 日本社会はそれに気が付かない。

15歳 ネット情報精査が弱点

OECD 国際調査

Programme for International Student Assessment (PISA)

日本の成績の低下

読解力 数学的リテラシー 科学的リテラシー

2006年 2018年

国・地域 32 41 57 65 72 79

OECD平均

日本「読解力」続落15位

15歳ネット情報精査が弱点

日本「読解力」続落15位

天声人語

南米沖のイースター島は巨大なモアイ像で知られる。住民は像の運搬に木材を使ったはずだが、森はその後すっかり消失した。ネズミによる食害か、それとも住民が乱伐したせいかわ。世界の15歳が挑んだ国際調査PISAの出題例である。鳥の森林消失の理由を論じた資料を並べ、どの説が正しいか論拠を書かせる。筆者も解いてみたが、出題意図がつかみにくい。採点してさらに驚いた。食害が乱伐かのどちらかだろうと思いきや、「両説とも不十分、さらなる研究が待たれる」も正解とされた。調査に参加した日本の高校生たちは、さぞ冷や汗を流しただろう。筆者の世代は教室で出会うことになった設問形式である。しかも紙と鉛筆ではなく、コンピューター画面上で解かれたら聞き、同僚を覚える。▼「学校では優秀生だったのに就職後はさえない人がいる。それはなぜなのか」。数年前、取材したPISAの担当者から言われた。「細かな知識はネットですぐ得られる。知識よりも、知恵を出して事態を突破する力が求められている」。熱のこもった口調だった。▼2000年調査で日本は大きく順位を下げ、激震が走った。今回も「読解力」が低下した。中国都市圏が好成績なのはなぜか。日本のデジタル教育はなぜ遅れるのか。結果に振り回されなければならないが、今後はそんな呪問が欠かせまい。▼自分が学生時代に受けた試験との「質」のあまりの違いに考え込む。学業とは何なのか。根源的な問いを突きつけられた。

2019.12.4. 朝日新聞が伝える OECD の15歳学力調査結果と天声人語の記事

◆拡大記事 URL: <https://www.infokkna.com/ironroad/2019htm/OECDasahikiji191204a.jpg>

無知盲目の仲間を募って 数の力でなんでも押し切る刹那の社会 美辞麗句を並べ 中身はそっちのけ
なんでもかんでも 自己責任に転じる。 自分の政策を「・・・ミックス」と自ら声高に言いまわるのは
自己陶醉そのもの。

セーフティネットがずたずたになった国土・地方は疲弊し、ますます格差が広がる刹那の日本の情報社会
この秋 30 歳 40 歳の働き盛りの給与水準は 10 年前の給与水準よりも 10%以上低下しているとの
統計が発表されている。その上 消費税は 10%に。 一方会社は好景気を謳歌し、高収益・内部留保
をため込んでいる。そして 人手不足が深刻だという。全く不思議な現実。
これは人為的な政策の代物の何物でもない。

片手間の非正規雇用対策ばかりでなく正規雇用の拡大 そして何よりも働く場・新しい雇用を生み出す産業創生
に注力せねば・・・・・・。でも 新産業創設の研究開発費の投入・分配の見識のなさは目に余る。

もう技術立国は影薄く、大企業は今の事業路線にしがみつき、次の事業がない。
これでは新しい雇用は生まれない。もう 大企業依存・イベント依存から脱却せねば…
湯水のごとく民衆の懐に手を入れて使う国債・消費増税頼みも限界に……………
昔はよかった・・・との言葉も聞かれるようになった今、もう 破綻寸前と映る
もっと 皆が明るい社会にならないものか…そんなことばかり言ってきた一年だったと映る。

そんな師走の中で発表された OECD が 3 年ごとに行う世界各国の 15 歳を対象とした学力総合調査
(読解力・数学的リテラシー・科学的リテラシーの 3 分野)で、数学・科学の分野では高い学力を維持しているも
のの、日本の読解力が大幅に低下したと伝えている。

数学リテラシー・科学的リテラシーと書かれたリテラシーとはなにか……………

また読解力の問題とは…………… インターネット等で調べると下記の通り。

要は社会全体の活力の源泉 知識は非常に高いレベルであるものの 知恵・判断・確かな行動アプローチが出来ないと
いわれ、社会の活力が失われているとの警鐘。

常々 多くの人が指摘する日本社会の課題と現状があからさまに国際的にも指摘された。

国際社会がし認める国力の先行きを示す重要な指標でと言える。

強がり言うまい。 今日本の現実はこのようだ…………と。

そう思うと本当にいろんなことが見えてくる。

この一年 日本で起こった数々の問題の根源にこの指摘が当てはまる。

◎ 読解力と「リテラシー (literacy)」とは、

読み書きができる能力や、その分野の応用、活用力、理解力を意味。

「リテラシー」は、単独でその言葉だけを使うことは少なく、「コンピューターリテラシー」や
「メディアリテラシー」「環境リテラシー」といった風に使うという。

◎OECD 調査 読解力の設問

解説を含め 2019.12.4. 詳細が示されている東京新聞の記事を紹介する

「ラパヌイ島」と題する設問

ラパヌイ島（イースター島）で調査をしている教授はブログで、

モアイ像が作られた当時にはあった大木が現在は生えていないことに疑問を示す。

木の乱伐が原因とするジャレド・ダイヤモンド氏の著書「文明崩壊」の書評、

ネズミが種を食べたためとする科学者の反論を紹介する記事があわせて示される。

生徒たちはそれら三つの文章を読み、大木が消滅した理由を根拠を挙げて説明することを求められる。

自らの可能性を広げ、社会に参加するために文章を理解して熟考し、考えを表現する力。

それが OECD が提示する読解力だ。……………

三年ごとの調査結果は教育政策に大きな影響を及ぼしてきた。

ゆとり教育転換の一つの契機は、読解力などが低下傾向にあったことだ。

2007年に再開された全国学力テストの出題はPISAを強く意識したものとなっている。

202年度から本格実施される高校の新学習指導要領では国語を「論理国語」「文学国語」などに再編する。

文学が片隅に追いやられるのではないかと文学界などから懸念の声が上がっている。

調査では読書についても尋ねており、興味深い分析結果が出ている。

雑誌以外では「読む」グループの方が「読まない」グループよりも得点が高く、

最も得点差が大きいのは小説や物語などのフィクションだった。次いで新聞、漫画となっている。

「論理的」と仕分けされた文章だけが、読解力を育むとは限らないことを示唆しているのではないかと。

読解力は、多様な養分を吸収してゆっくり育つ木のような力なのだろう。

読解力育成のため、社会や理科など国語以外の教科でも、文章のまとまりなどを意識した授業改革に取り組み始めた学校もある。調査の順位のためというよりは、子どもたちの未来を広げるために、学校や社会が豊かな養分を含んだ土壌でありたい。

インターネット記事検索でみつけた東京新聞 2019.12.4. 記事より 全文整理

これは今の学校のOX式詰め込みの受験教育の中では最初から設問に詰まって解けないわ……と。

でも 一部の私学では そんな読解力中心の国語授業が行われ、他の授業と連動されているとの話を聞いて、余裕があるなあ。。。と感心したこともある。

天声人語氏は「細かな知識はインターネットで得られるが、知識よりも知恵を出して、事態を突破する力が求められる」というOECD担当者の言葉を紹介している。日本に一番今かけている点との指摘。

知識がいやというほど積み込まれていく日本の今の画一的な教育への痛烈な一発である。

みんながみんな社会全体が同じ方向にむけた発展途上の高度成長と成熟した今の情報社会には当然違いがある。

今の時代 一部の人に情報が限らず 同じ情報を広くみんなが持っている。そこに 多層多重の芽があり、それを封じて 同一を強いられることに息苦しさをを感じるし、異を感じる時代なのである。で

も 日本では今 あまりにも「不思議やなあ」「おもしろいな」などの発想や知識から広がる「知恵」がない。

付和雷同 感激・感動ではなく盛り上げの言葉が空虚に響く。

知った知識を少し披露しただけで「それがどうしたの…… ああ めんどくさ」との言葉がすぐに。

知識から知恵・発想への転換が全く無視され、同一同調が一番される日本昨今の情報社会。

なにも子供たちの教育問題だけではない。今の日本の社会全体がそうになっているのだ。

とりわけ、日本を動かしてきた政治・大経営者たちの言動をみれば一目同然……

ほかにも この12月 心に響いた記事がいくつかありましたので、転記。

この秋 重多様な社会への脱皮について、それぞれの個性を意識する多様多重社会の醸成を考える本や新聞記事・番組に数多く出会うことがあり、自分にはできなかった反省も込めて。

特にあまりに個性豊かで 仲間・先生・学校での集団生活に溶け込めず、「好きなことを 好きに 好きな時に」とその都度 自分の実学ノートに記してきた7年間の記録をひも解くNHKの番組NHK「ボクの実学ノート 7年間の小さな大冒険」で語られた 生物学者福岡伸一さん著「エリボシカミキリ」の中にある言葉やこの秋読んだ「ソーシャル・マジョリティ研究 コミュニケーション学の共同創造」にも心に響きました。

また、本年は仲間がみんな後期高齢を迎え、老化と向き合う歳に。

老化と闘い、また先に逝ってしまった仲間もいる。この秋は仲間を思い浮かべながらの毎日散歩になったことも数多し。

でも まだまだ好奇心もあり、足も動く。家族仲間もいる。勝手気ままな風来坊 神戸の片隅で

皆に世話になりながら 勝手気ままにと。

本年どうもありがとうございました。 また来年。

From Kobe Mutsu Nakanishi

衰退の兆候

「競合する全勢力を抑え込み、すべてを自分と同じ類型に流し込むのに成功してしまうと、その国の向上は終わり衰退が始まる」
「抵抗を齎る可能性ない人」は「理性」を必要としなくなり、その意思を押し通すようになる。
「間違っていると告げてくれる人の話を聞けば、いらだってしまう」

文化・文芸

13版S

2019年12月5日(木)

東京

日

満天

晴

桜を見る会 危うい選挙独裁

寄稿

齋藤 純



安倍晋三首相（前列中央）、副首相夫人（同右から4人目）と記者団の「桜を見る会」の参加者＝4月13日、東京都新宿区

抵抗の可能性を排除 民主主義に傷

「桜を見る会」やその「前後」に際して政権中枢がどうした行動に公選選挙法や政治資金規正法に反する疑いがあることは、すでに指摘されているとおりである。公金が表裏的に「推薦」の候補者対策に向けて支出されたのだとすれば、それは見過ごしていい問題ではない。

だが、問題はそれにとどまらず、この政権は、これまでにも不都合な文書の隠蔽、改竄、無きと知って来たが、今回もまた同様の手法で責任の追及をかわそうとしている。それが強く懸念されるのは、民主主義を成り立たせるための制度である。

まや選挙史上最大となったこの政権は、与野党の関係から「抵抗」を受ける可能性を一掃し、官報組織からも官報制なるものは「合理性」を「付与」されている。この問題については野党が本陣を入れているのがわかる。この教訓である。

さいとう・じゅんいち



（早稲田大学教授）

歴史的に見ると、アカウンタリティーは、一党独裁の「憲法」に対して闘い取られてきた貴重な成果である。世襲や横柄の公権があつてはじめて統治に意欲がないかを市民もチェックできるからである。コントロールを受けることなく、法的に他をコントロールできるような横柄（公的支配）を許さないことが、その目的である。この民主制の制度を一旦として覆ろうとした安倍政権は、自らに代わって来たかを自覚しているのだろうか。世襲調査で40%の党内支持率をもって民主的であると思ひ込んでいたのだろうか。その場その場の駆け引きは、はるか首相の姿はどのような「教育効果」をもつたのだろうか。

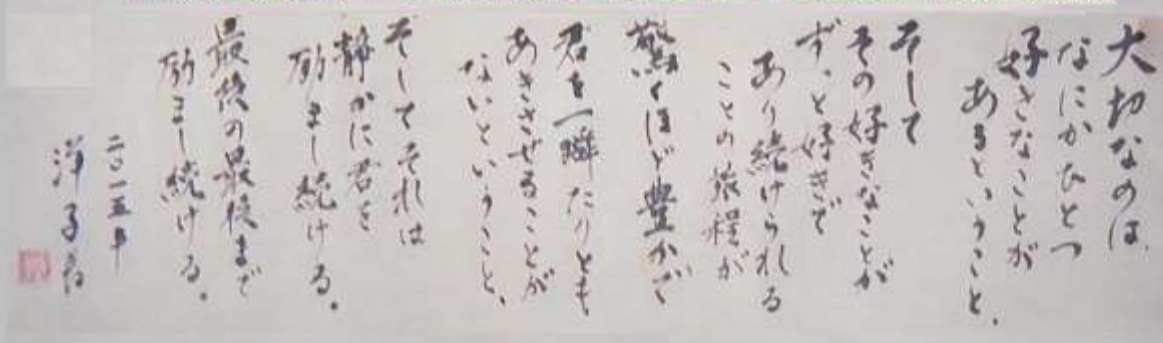
「抵抗を受ける可能性」を排除する政治は、世界各地に散見される。野党の無力化、批判的なメディアへの攻撃、腐敗的な任命延長……何れもそうした政治を許してしまうのか。この国で民主主義が「選挙独裁」を導く結果に陥らないようにするためには、首相の解散権、官報に対する人事権、そして選挙制度を含めて直ちに直すべきがあるだろう。「桜を見る会」をめぐる問題は、民主的な統制よりも強いリーダーシップを優先すると政府がどうなるかを示している。

朝日新聞 2019.12.4. 齋藤純一さん寄稿 「桜を見る会 危うい選挙独裁」

◆拡大記事 URL: <https://www.infokkna.com/ironroad/2019htm/191204sakuranokai.jpg>

孤独な小学生から中学・高校進学までの7年間 好きなことに向き合う自分を自学ノートに綴り、こころの通いあえる人たちとの交流をつづった番組

NHKの番組「ぼくの自学ノート 7年間の小さな大冒険」で語られた 福岡伸一著「エリボシカミキリ」にある心に響く言葉



生物学者

福岡伸一さんの言葉

NHK 「ボクの実学ノート 7年間の小さな大冒険」で語られた 生物学者福岡伸一さんの言葉
福岡伸一著「エリボシカミキリ」より

<https://www.infokkna.com/ironroad/2019htm/1912jigakunote.jpg>

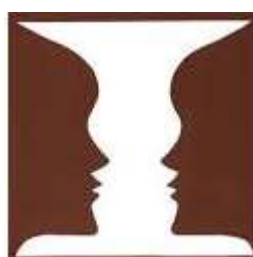


<https://www.infokkna.com/ironroad/2019htm/1912yoshino.jpg>

- ◆ 金子書房 「ソーシャル・マジョリティ研究 -コミュニケーション学の共同創造-」
発達障害者の側から ソーシャル・マジョリティ(社会的多数派)のルールやコミュニケーションを研究しました。
「障害は個人の中にあるのではなく、多数派が作った社会と少数派の身体特性の間に生じる」
なにかよくわからぬまま発達障害者とかたづけられ、排除される人が多数いる
その人たちは社会的多数派のルールやコミュニケーションについてゆけないだけである。
逆に社会多数派があまり意識していないが、社会的多数派のルールやコミュニケーションが多数あることを
理解し、そんなルールなどを障害者側に立って研究することで理解が深まれば、
お互いのコミュニケーションを生むことが出来て、より良い関係を生むことが出来る。

だまし絵 真実の一つなのか……

多数派のおごり by Mutsu Nakanishi



絵の中にだまし絵という世界がある。

このだまし絵 人のその時々感情・事情によって見え方が違う。

今 画一的になんでもかんでも AI に任せて判断させようとする。

知能ロボット万能論が伝えられている。

でも この知能ロボットにだまし絵を見せて アクションを起こさせたら、どんな反応をするのか???

興味津 AI の判断万能を唱えるのは間違いではないか……

上記したソーシャル・マジョリティ研究の理解にも このだまし絵の理解が欠くことが出来ないと思っている
そもそも 現世人類が幾多の困難を乗り越え、生き抜いてきた所以は
相手の表情で共感・感応を醸成してきたからに他ならない。